

東洋思想文化

宮本久義教授退任記念号

六国史に見る般若心経の受容と展開

渡辺 章悟(21)

日本の古文獻から見た中國初期禪宗

—大安寺道璿の「集註梵網經」を中心に—

伊吹 敦(37)

バリ・ヒンドウ教の人生儀礼

—生後三ヶ月の儀礼「トゥルブラン」を中心に—

山口しのぶ(115)

スイク教祖ナーナクの神観念

橋本 泰元(139)

敬惜字紙について

—森島中良・瀧澤馬琴の敬惜字紙—

川崎ミチコ(158)

東洋大学文学部紀要第68集

東洋思想文化学科篇



宮本久義 教授 近影

宮本久義先生を送る

宮本久義先生はこのたび定年をお迎えになり、東洋大学教授の職を退かれることとなった。東洋思想文化学科は完成年度に達していないので今後もしばらくの間はご出講いただく予定であるが、これがひとつの区切りとなると、このことで、本号を献呈し拙文をもって先生をお送りする言葉とした。

宮本先生は早稲田大学第一文学部東洋哲学科のご出身で、大学院修士課程修了後はインドのパナラス・ヒンドゥー大学 (BHU) に学び、「サーンキヤ・ヨーガ学派の時間概念」の研究によって哲学博士 (Ph.D.) の学位を取得された。本学インド哲学科に教授として赴任される以前から正統派のインド古典哲学やヒンディー語などを講じ、その後はヨーガやアーユルヴェーダの他、インドの現代を扱った講義も担当され、宮本ゼミ(演習)ではこれらの他にヒンドゥー教神話や古典文学など、広範なインド文化の諸相を扱われた。学生を率いて現地調査する、インド人研究者を本学に招聘するなど、講義以外にも学生に知的刺激を与え続ける先生は、その広範な学識と懇切丁寧な指導のゆえに多くの学生に慕われている。研究室からは閉門直前まで学生と対話する声が聞こえ、その講筵に連なることを求めた者は出身大学を問わなかった。非常勤講師として教鞭をとられた大学は、本学の他には母校の早稲田大学、東京大学など多数におよび、先生が学者として教師として及ぼした影響の広さと深さは、まったく比類の無いものである。

インド古典哲学の文献学的研究から出発した先生であるが、長期間にわたるインド滞在の経験から現地の事情にも精通しておられ、ことの新旧を問わず、およそインドに関してご存じないことはない、とさえ思われた。研究の

フィールドは文献資料にとどまらず、たびたびの現地調査を通じて他には見ることでできない重層的な研究領域が構築されている。

東洋大学に赴任されてからは諸種の学内委員はもちろんのこと、学科主任（現「学科長」）、大学院専攻主任を歴任され、その冷静な判断と温和なお人柄は、大学院文学研究科委員長や国際哲学研究センター副センター長といった学内の要職に先生をとどめた。困難な課題が山積する中、淡々と、そして粛々と職責を果たされ、本学の発展に大きく寄与されたのである。

インドを含む南アジアの研究は極めて広範囲に及び、その全体に目を配ることは容易ではないが、先生は日本南アジア学会の事務局長を三年にわたってお務めになり、学会事務局は先生の指導のもとで、南アジア研究の発展を支えた。その後も常任理事として重責を担っておられる。

思い出すことは尽きず、書くべきことはまだあるような気がするのだが、最後にいささか個人的な思い出を記すことをお許しいただきたい。私が初めて宮本久義という名を知ったのは三十年近くも前、諏訪湖のほとりで開かれた研究合宿の自己紹介の席であった。研究情報の乏しい地方大学の大学院に入ったばかりで自分の研究課題も決めかねていた私にとって、数年間にわたるインド留学を経験されたという先生は、仰ぎ見る存在のように思われた。それから十数年を経て、ある学会で研究発表の司会をお務めになった際には「沼田さん、さっきの発表を学会誌に英文で投稿したらどうですか。」と勧めてくださった。原稿は学科紀要に日本語で発表したのだが、私はその同じ学科に先生とともに勤務して隣の部屋を与えられることになったのである。

二部の講義が終わってしばらくしてから帰宅しようとする、隣室にはいつも明かりが灯いている。これからはそれも見られなくなると思うと心細く感じるのだが、長きにわたって活躍された先生には、しばしの休息をお取り

ただかねばならないのであろう。今後ますますご健康で、学問を楽しまれる生活の続くことをお祈りし、私ども後進にも範を垂れていただくよう切にお願いして筆を擱く。

第二部東洋思想文化学科長 沼田一郎

宮本久義教授 略歴・業績目録

略歴

- 昭和二五年 一月 東京都浅草生まれ
- 昭和四三年 三月 東京都立上野高等学校卒業
- 昭和四四年 四月 早稲田大学第一文学部入学
- 昭和四九年 三月 同学部東洋哲学科卒業
- 昭和四九年 四月 早稲田大学大学院文学研究科修士課程東洋哲学専攻入学
- 昭和五二年 三月 同専攻修了
- 昭和五三年 一月 バナールス・ヒンドゥー大学大学院博士課程哲学専攻入学
- 昭和五九年 二月 同専攻修了
- 昭和六〇年 一〇月 Ph.D. (哲学博士) 学位取得 (バナールス・ヒンドゥー大学)
- 昭和六一年 四月 大東文化大学外国語学部非常勤講師 (平成五年三月まで)
- 平成 四年 四月 山村女子短期大学国際文化科非常勤講師 (平成一〇年三月まで)
- 平成 五年 四月 早稲田大学文学部非常勤講師 (平成一八年三月まで)
- 平成 七年 四月 早稲田大学人間科学部非常勤講師 (平成八年三月まで)
- 平成 九年 四月 東洋大学文学部非常勤講師 (平成一七年三月まで)

- 平成二二年 四月 大正大学文学部非常勤講師（平成一七年三月まで）
- 平成二三年 四月 東京大学文学部・人文社会学系研究科非常勤講師（平成二〇年九月まで。平成一四、一五、一九年度は通年、その他の年度は半期）
- 平成二四年 四月 早稲田大学人間科学部非常勤講師（平成二四年三月まで）
- 平成一七年 四月 東洋大学文学部教授（現在に至る）
- 平成一七年 四月 東洋大学東洋学研究所研究員（現在に至る）
- 平成一八年 四月 東洋大学共生思想研究センター研究員（平成二三年三月まで）
- 平成一八年 四月 東洋大学「エコ・フィロソフィ」学際研究イニシアティブ、サステイナビリティ学連携研究機構研究員（平成二三年三月まで）
- 平成一九年 四月 文学部第一部インド哲学科主任（平成二一年三月まで）
- 平成一九年 四月 日本印度学仏教学会評議員（現在に至る）
- 平成一九年一〇月 日本南アジア学会常務理事（平成二六年三月まで。平成二一年一〇月～平成二四年九月は事務局長）
- 平成二二年 四月 大学院文学研究科仏教学専攻主任（平成二三年三月まで）
- 平成二二年 四月 早稲田大学東洋哲学会理事（現在に至る）
- 平成二三年 四月 大学院文学研究科インド哲学仏教学専攻主任（平成二四年三月まで）
- 平成二三年 七月 東洋大学国際哲学研究センター副センター長（現在に至る）
- 平成二四年 四月 大学院文学研究科委員長（平成二六年三月まで）

平成二四年 四月 国際仏教学大学院大学非常勤講師（現在に至る）

平成二五年 三月 筑波大学大学院人文社会科学研究所非常勤講師（集中講義）

平成二六年 四月 東京大学文学部・人文社会学系研究科非常勤講師（平成二六年九月まで）

著書・編著

『インド・道の文化誌』（共編著 春秋社 平成七年二月）一～三二八頁

『インドおもしろ不思議図鑑』（共編著 新潮社 平成八年一月）一～二〇頁

『チベット巡礼』（共著 KDDクリエティブ 平成九年二月）一〇七～一二三頁

『ヒンドゥー聖地 思索の旅』（単著 山川出版社 平成一五年四月）一～二四〇頁

『ヒンドゥー教の事典』（共著 東京堂出版 平成一七年一月）一五～一〇二、二三五～二四二、二五一～

二六八、三〇一～三〇四頁

研究論文

The Concept of Time in the Sāṃkhya and the Yoga Systems: A Critical and Comparative Study. (Ph.D.論文バナー

ラス・ヒンドゥー大学に提出 昭和五九年（二月）一～二四五頁

『リグ・ヴェーダ』に見られる時間意識』『東洋研究』第八六号（大東文化大学東洋研究所 昭和六三年三月）

一五～三二頁

「サーンキヤ哲学における時間概念」『東洋研究』第九一号（大東文化大学東洋研究所 平成元年三月）二七～四九

- 「北インドの祝祭空間」『コッラニ』第一三号（コッラニ編集部 平成元年九月）八〇～一〇八、一一〇頁
- 「氷河上の聖窟をめざして」『季刊民族学』第五二号（千里文化財団 平成二年四月）六〇～二五頁
- 「聖河の流れる谷―ウッタラーカンド四大聖地巡礼―」『季刊民族学』第五四号（千里文化財団 平成二年一〇月）二〇～三三頁
- 「ヨーガ・精神と身体の変モルフォーゼ」『古代インド・ペルシアのスポーツ文化』（松浪健四郎・河野亮仙編 ベースポール・マガジン社 平成三年六月）一四二～一四九頁
- 「複合的聖地カイラース」『季刊民族学』第六四号（千里文化財団 平成五年四月）九八～一一四頁
- 「パーンの文化誌」『コッラニ』第一四号（コッラニ編集部 平成五年九月）七四～九〇頁
- 「聖地カイラース巡礼の宗教的背景と実態」『東洋研究』第一一一号（大東文化大学東洋研究所 平成六年三月）一〇三～一二三頁
- 「つくられた宗教都市バナールス」『季刊民族学』第七一号（千里文化財団 平成七年一月）二〇～三七頁
- 「ヨーガとアーユルヴェーダ」『東洋医学と人間科学』第五号（早稲田大学人間科学部 平成八年三月）五七～九三頁
- 「インド思想における伝統的行法と医療―ヨーガとアーユルヴェーダ―」『東洋医学と人間科学』第六号（早稲田大学人間科学部 平成九年三月）五三～八〇頁
- 「カルマ―未来の生を決めるもの―」『アジア遊学』第二号（勉誠出版 平成一一年三月）五〇～五七頁
- 「九ドゥルガー成就ヤントラの銅板に関する所見」『インド考古研究』第二〇号（インド考古研究会 平成一一年七月）

月) 八四～八八頁

Research and Studies of Sanskrit Literature in Japan : Trends and Prospect in *Imaging India Imaging Japan: A*

Chronicle of Reflections on Mutual Literature. (Eds. U. Sachidanand and T. Sakata) Manak Publications (平

成一六年) 二七八～二八五頁

『建築書』マンジュシユリ・ヴァーストゥヴィディヤー・シャーストラ (Manjusri Vastuvidyasastra)』の設計法則・

スリランカ仏教寺院建築の設計法則 その2』『建築史学』第四四号 (建築史学会 黒河内宏昌氏と全頁共著

平成一七年三月) 三九～七六頁

『『マツヤ・プラーナ』所収の「ヴァーラーナスイー・マーハートミヤ」について』『東洋大学文学部紀要・インド

哲学科篇』第五九集 (平成一八年三月) 一八一～二〇〇頁

「ヒンドゥー教における輪廻と解脱」『東洋における死の思想』(吉原浩人編 春秋社 平成一八年七月) 五～二五

頁

『『カーシー・ラハスヤ』に見られる聖地巡礼の作法』『東洋学研究』第四四号 (東洋学研究所 平成一九年三月)

一一九～一三〇頁

『『マツヤ・プラーナ』第一八三章・和訳と註解』『マツヤ・プラーナ』所収の「ヴァーラーナスイー・マーハートミヤ」

について (2)』『東洋大学文学部紀要・インド哲学科篇』第六〇集 (平成一九年三月) 一三五～一五八頁

『古典サンスクリット文学に見られる共生思想』『共生思想研究年報二〇〇六』(東洋大学共生思想研究センター

平成一九年三月) 七五～八二頁

「ヒンドゥー聖地巡礼の作法」『カーシー・ラハスヤ』中のパンチャクローシー巡礼をめぐって』『多民族社会に

おける宗教と文化』一一号（宮城学院女子大学 平成二〇年三月）一九〜三七頁

「叙事詩の世界を生きたる神劇 ラーム・リーラー」『神話と芸能のインド』（鈴木正崇編 山川出版社 平成二〇年

八月）七一〜九〇頁

『マツヤ・プラーナ』第一八四章・和訳と註解―『マツヤ・プラーナ』所収の「ヴァーラーナスイー・マーハートミヤ」について（3）『東洋大学文学部紀要・インド哲学科篇』第六二集（平成二一年三月）一二〇〜一三四頁

「インドにおける宗教間共生への課題―ヒンドゥー教の祭礼ラーム・リーラーの考察に基づいて」『共生思想研究年報二〇〇八』（東洋大学共生思想研究センター 平成二二年三月）七五〜八一頁

「インドの自然観と環境問題」『エコ・フィロソフィ』研究』第四号（サステイナビリティ学連携研究機構 平成二二年三月）三五〜四二頁

「ガンジス川をめぐるインドの環境問題」『エコ・フィロソフィ入門―サステイナブルな知と行為の創出』（松尾友矩・竹村牧男・稲垣諭編 ノンブル社 平成二二年一月）五一〜六四頁

「ヒンドゥー聖地と環境問題」『宗教研究』第三六三号（日本宗教学会 平成二二年三月）一八三〜一八四頁

「ヴァーラーナスイーにおける聖地巡礼」『東洋における聖地信仰の研究―ヒンドゥー教と仏教における聖地巡礼成立の要件』（東洋学研究所プロジェクト二〇〇七〜二〇〇九年度報告書）（宮本久義編 東洋大学東洋学研究 所 平成二二年三月）三〜一六頁

「Matsyapurāṇa所収のVārāṇasīmahātmya・和訳と註解」『東洋における聖地信仰の研究―ヒンドゥー教と仏教における聖地巡礼成立の要件』（東洋学研究所プロジェクト二〇〇七〜二〇〇九年度報告書）（宮本久義編 東洋大学東洋学研究 所 平成二二年三月）一七〜六五頁

「宗教と共生―インドの多元的社會から見た共生の問題」『共生思想研究年報二〇〇九』（東洋大学共生思想研究センター 平成二二年三月）一六〇～二三頁

「『マツヤ・ブラーナ』第一八五章・和訳と註解―『マツヤ・ブラーナ』所収の「ヴァーラーナスイー・マーハートミヤ」について（4）」『東洋大学文学部紀要・インド哲学科篇』第六四集（平成二三年三月）一七九～一九四頁

「インドの聖地と環境問題―聖地バナラスにおける生活と信仰をめぐって」『南アジアの文化と社會を読み解く』（鈴木正崇編 慶應大学出版会 平成二三年一月）六九～八四頁

「『トリスタリーセートゥ』における聖地巡礼の規則」『東洋大学文学部紀要・インド哲学科篇』第六五集（平成二四年三月）一五五～一六八頁

「聖地における祖先供養―『トリスタリーセートゥ』三六八～四〇五の和訳と註解―」『東洋大学文学部紀要・インド哲学科篇』第六六集（平成二五年三月）一四七～一七〇頁

「ヴァイディヤナーテーシユヴァラ・ジョーティルリంగా縁起譚」『東洋大学文学部紀要・東洋思想文化学科篇』第六七集（平成二六年二月）一〇四～一二四頁

翻訳

Okuda, Shirryu, Indra in the Vṣṇu Purāṇa, in *Purāṇa*, Vol. XXII, No. 1, All-India Kashiraj Trust, Varanasi. (奥田清隆「ヴィシユヌ・ブラーナにおけるインドラ」『印度学仏教学研究』第二六卷第一号所収の英訳 昭和五五年一月）二七～三二頁

「カムレーシユ・ダット・トリパーティー」『古代インド文化におけるスポーツ・ゲーム・娯楽』『古代インド・ペ

- ルシアのスポーツ文化』(松浪健四郎・河野亮仙編 ベースボール・マガジン社 平成三年六月) 一〇七～
一二二頁
- 「ラメーシュ・クマール・パインデー『サンスクリットと共生』」(Ramesh Kumar Pandey, Sanskrit and Co-existenceの和訳) 『共生思想研究年報二〇〇八』(東洋大学共生思想研究センター 平成二二年三月) 一一三～一一六頁
- 「ラメーシュ・クマール・パインデー『寛容—平安と幸福のためのマントラー』」(Ramesh Kumar Pandey, Tolerance : The Mantra for Peace and Happinessの監訳) 『共生思想研究年報二〇〇八』(東洋大学共生思想研究センター 平成二二年三月) 一二一～一二八頁
- 「ジャヤンドラ・ソーニー『インド哲学史における異文化間の関わり—討論と対話による共生の一例—』」(Inter-cultural Relevance of Some Moments in the History of Indian Philosophy : A Case of Co-existence Through Debate and Dialogue の和訳) 『共生思想研究年報二〇一〇』(東洋大学共生思想研究センター 平成二三年三月) 一五一～一五五頁
- 「ジャヤンドラ・ソーニー『聖典シヴァ派における人間観』」(The Concept of Man in Saiva Siddhanta の和訳) 『共生思想研究年報二〇一〇』(東洋大学共生思想研究センター 平成二三年三月) 一六一～一六四頁
- 「ジャヤンドラ・ソーニー『ジャイナ教における人間観』」(The Concept of Man in Jainism の和訳) 『共生思想研究年報二〇一〇』(東洋大学共生思想研究センター 平成二三年三月) 一六九～一七五頁

その他

「インド―宗教・官能・戦争」『朝日アジア・レビュー』第一二号（朝日新聞社 昭和四七年二月）一四六―一五五頁

「インド思索行 ガンジスを遡りて」①～③『世論時報』第三〇七、三〇八、三一一号（世論時報社 昭和五二年一、二、五月）五二～五七頁、五五～五九頁、六一～六五頁

「東南アジア留学生の見た日本」①②（座談会）『世論時報』第三〇九、三一〇号（世論時報社 昭和五二年一、二、五月）五八～六五頁、五八～六五頁

「大いなる時間のなかで―待つことの修練」『地湧』一九八五年一月号（地湧社 昭和六〇年一月）八～一三頁
「誕生星が合わない」と神の加護は受けられない」『季刊民族学』第四〇号（千里文化財団昭和六二年四月）五七頁

「インドの古典舞踊」『思想の動き』第二二号（東京書籍 平成元年五月）六～七頁
「七歩の誓い インドの結婚式」『CAT』第九六号（アルク出版 平成二年六月）一四～一五頁

「バナラスのあぶない魅力」『東インドの旅』（昭文社 平成二年一〇月）九二～九三頁
「伝説の苦行者デーウラファア・バーバー」『シルクロード通信』復刊第二号（シルクロード文化研究所 平成三年三月）二二頁

「多様性の森に分け入る」（鼎談）季刊『ノイズ』第九号（中村とうよう・小日向英俊氏と ミュージック・マガジン 平成三年三月）五九～七〇頁

「バナラス 異界に通じる聖域」「ガンガールの流れる聖地」『都市の顔・インドの旅』（坂田貞二氏ほか編 春秋社 平成三年一〇月）二六四～二六八、三四九～三五五頁

「聖地のネットワーク」『春秋』第三三九号（春秋社 平成四年五月）二二～二四頁

「巡礼の風景」（シンポジウム）『季刊 創造の世界』第八六号（上野千鶴子・小野田俊蔵・白館戒雲・立川武蔵・

山折哲雄氏と 小学館 平成五年五月）七八～九七頁

「ヒンドゥー教の神話と神々」『女神群舞 アンコール遺跡の神々』（松本栄一写真集時事通信社 平成五年八月）

九一～九四頁

「想像力をかき立てさせる―インド文化爛熟期の閨房哲学を伝える戯曲」（藤山覚一郎・横地優子訳『遊女の足蹴』の書評）『週間読書人』（読書人 平成六年四月一五日号）

「聖地巡礼ガイド」（監修）『ヒンドゥー教の本』（学習研究社 平成七年七月）一六七～一八二頁

「現代の解脱」『季刊民族学』第七三号（千里文化財団 平成七年七月）五三頁

「ヒンドゥーの神々」「花開くヒンドゥー文化」「英雄たちの叙事詩」『図説インド歴史散歩』（小西正捷・岩瀬一郎

編 河出書房新社 平成七年八月）四一～四四、四五～五〇、五一～五三頁

「異貌の神々」「ヒンドゥー教と民間信仰」『原インドの世界』（小西正捷監修 東京美術 平成七年九月）八八～

一一一頁

「チャンドラグプタとチャーナキヤ 古代インドのスパイ合戦」『別冊歴史読本』第〇〇号（新人物往来社 平成七

年一月）三〇二～三〇三頁

「街角に祈りの声がかまします インドは宗教のルツボ」『1週間に9日の祭りがある!?! インドは祭りの天国』『8

里』ごとに言葉が変わる』多言語語国家インドの実情』『インド 長期滞在者のための最新情報』（岩瀬一郎編

三修社 平成八年九月）一七四～一八四頁

- 「死後の世界―生まれかわりを信じる人びと」『九電だより』第二二号（九州電力株式会社 平成八年十二月）九〇頁
- 「バナナラス・聖と俗の劇場都市」『インド個人旅行マニュアル』（「地球の歩き方」別冊 ダイヤモンド社 平成八年十二月）二二六～二二九頁
- 「インドの自然観―水との交わり」『CEJ』第四〇号（大阪ガス エネルギー・文化研究所 平成九年三月）四三～四七頁
- 「なかなか越えられない宗教間の溝」『NATIONAL GEOGRAPHIC（日本版）』一九九七年五月号（日経ナショナルジオグラフィック社 平成九年五月）九〇頁
- 「神々に出あう旅」―「時空を超える動線」―「太陽は眼、風は息」『アジア読本 インド』（小西正捷編 河出書房新社 平成九年七月）二二六～二二三、二二六～二二三、二二六～二二四頁
- 「バナナラスの魅力」（インタビュー）『地球の歩き方マガジン』第二九号（ダイヤモンド社 平成九年一月）六六～六七頁
- 「神と人を繋ぐ神劇ラーム・リーラー」『CASニュースレター』八七号（慶応義塾大学地球研究センター 平成一〇年三月）三～六頁
- 「ユーラシアの歴史と変貌を見つめる―『シルクロード 遺跡と現代』を読む―」『本の窓』第二二卷第八号（小学館 平成一〇年一〇月）七四～七五頁
- 「ヒンドゥー教の聖地と絵地図」『世界美術大全集東洋編第一四卷月報』（平凡社 平成一一年一月）一〇～一一頁
- 「幻景としての聖地」『季刊文化遺産』第七号（島根県並河萬里写真財団 平成一一年四月）五七～五八頁

「バナナラス―生と死の巡礼都市」（映像人類学シリーズ一、アジアの宗教）（ヴィジュアルフォークロア 平成二年六月）一～一六頁

「アーブー山」「ウッジャイン」「バナナラス」「サールナート」「ジャウンプル」「サーサーラム」「ガヤー」「ボードガヤ」「ナーランダー」「ラージギル」「ルンビニー」「クシーナガル（クシナガラ）」「パトナー」「バクサル」「パーラスナート」『世界歴史の旅 北インド』（辛島昇・坂田貞二編 山川出版社 平成二年七月）一三二～一三三、一三五～一三六、一四三～一四八、一五〇～一五四頁

「インドの『滑稽』」（藤原新也氏へのインタビュー）『MONSOON』第四号（王子製紙株式会社 平成二年一月）四～七頁

「回顧と展望…南アジア（古代・中世）」『史學雜誌』第一一〇編第五号（史學會 平成一三年五月）三〇〇～三〇四頁

「インドの宗教 インドは宗教のるつぽ」『地球の祈り』（キングレコード 平成一三年二月）九〇～九一頁

「インド思想を育んだ聖河ガンガー」『ガンガー 母なるインドの聖河 松本栄一写真集』（丹陽・雄山閣 平成一四年一月）一八、四〇、五四、九二、一一〇、一三〇、一四五～一五三頁

「天界に通じる岸辺」『ベナレス 生と死の聖地』（NHK「アジア古都物語」プロジェクト編 日本放送出版協会 平成一四年六月）一八〇～一九九頁

「解脱の道を追究する遊行者サードゥーの生活」『週間朝日百科世界 一〇〇都市、バナナラスとカルカッタ』（朝日新聞社 平成一四年一月）一〇～一一頁

「学問の都バナナラス」『インド通信』三〇七号（インド文化交流センター 平成一六年四月）一～二頁

- 「地上に現れた天界―聖地バナールス」『みんぱく』二八卷一二号（国立民族学博物館 平成一六年一二月）八〇頁
- 「現代インドの政治と宗教」『菅沼晃博士古稀記念論文集 インド哲学仏教学への誘い』（菅沼晃博士古稀記念論文集刊行会 平成一七年三月）六三〜七五頁
- 「インドの神話と文学」『菅沼晃博士古稀記念論文集 インド哲学仏教学への誘い』（菅沼晃博士古稀記念論文集刊行会 平成一七年三月）八七〜九七頁
- 「3つの債務」『KYOSEI（共生）NEWSLETTER』第一号（東洋大学共生思想研究センター 平成一八年九月）四頁
- 「インド思想とエコ・フィロソフィー―水をめぐるインドの自然観―」『TIEPh NEWSLETTER』第三号（平成一八年一二月）五頁
- 「多言語・多民族・多宗教の国インド」『大東文化大学日本語学科年報』第一三三号（平成一九年三月）八二〜八七頁
- 「一〇〇パーセント信じ、一〇〇パーセント疑う」『無限大の安吾（東洋大学公開講演）論文集』（山崎甲一氏ほかと共著 菁柿堂 平成一九年八月）八七〜九九頁
- 「研究室探訪・東洋大学文学部インド哲学科宮本研究室の巻 千年のスパンでサステイナビリティを考える」（インタビュー）『サステナ』第五号（サステイナビリティ学連携研究機構 平成一九年一〇月）五六〜五九頁
- 「新仏教（ネオ・ブッディズム）と現代インド」『浅草寺仏教文化講座』第五二集（浅草寺 平成二〇年八月）一一二〜一二七頁
- 「ヒンドゥー教が考える死」『不死の甘露・アムリタ』『大法輪』平成二二年七月号（大法輪閣 平成二二年七月）六八頁、

「閉鎖系の共生」から『開放系の共生』へーインドにおける共生の問題ー』『共生思想研究年報二〇一〇』（東洋大
学共生思想研究センター 平成二十三年三月）一二〜一五頁

「三界を流れる川ガンジス」『紫明』第二十九号（紫明の会 平成二十三年十月）一一〜一四頁

事典項目執筆

「タイマ」『南アジアを知る事典』（辛島昇ほか監修 平凡社 平成四年一〇月）

「ヨーガ」「シャクティ」等（電子辞書）『Microsoft エンカルタ九七 エンサイクロペディア』（平成九年）、同
九八年版（平成一〇年）、同九九年版（平成一一年）

「バドリーナート」『新訂増補 南アジアを知る事典』（辛島昇ほか監修 平凡社 平成一四年四月）

「イクバル、ガザル、カビール、カタールサリットサーガラ、カーリダーサ、ギータゴヴィンダ、グルーグラン
トサーヒブ、サンガム、シャクンタラー、スールダース、タゴール、トゥルスイーダース、ナラ王物語、ナー
ラーヤン、ナイポール、バガヴァッド・ギーター、パンチャタントラ、ヒトローパデーシヤ、プリームチャンド、
マハーバーラタ、ミリンダ王の問、ラーマーヤナ、ラサ」『広辞苑』第六版（坂田貞二氏と共著 岩波書店
平成十九年一月）

「金倉圓照『インドの自然哲学』」「宗教学文献事典」（島菌進ほか編 弘文堂 平成一九年一二月）

「ユガ」『新版』南アジアを知る事典』（辛島昇ほか監修 平凡社 平成二四年五月）

テレビ番組監修・編集協力

「インド 三〇〇〇年の医術① 生命の健康法ヨーガ・インド人の知恵の結晶」NHKスペシャル（昭和六三年五月二二日放送）

「インド 三〇〇〇年の医術② 知られざる医学アーユルヴェーダ・浄化強壮」NHKスペシャル（昭和六三年五月二三日放送）

「インドの伝承医学①」NHK・ETV（教育テレビ）（昭和六三年六月二三日放送）

「インドの伝承医学②」NHK・ETV（教育テレビ）（昭和六三年六月二四日放送）

「インドの伝承医学③」NHK・ETV（教育テレビ）（昭和六三年六月二五日放送）

「イスラーム世界の漢方 インド・ユナーニー医学」NHK・ETV（教育テレビ）（昭和六三年一〇月一九日放送）

「バナラス・生と死の巡礼都市」MX東京メトロポリタン・テレビ開局記念番組・VF映像人類学シリーズ（ヴィ

ジュアルフォークロア制作 平成七年一月一五日放送）

「原インドの世界」VF映像人類学シリーズ（ヴィジュアルフォークロア制作 平成七年）

「ガンジスからの使者・インド二〇〇〇年命の水を運ぶ」NHKスペシャル（ヴィジュアルフォークロア制作 平

成七年二月二七日放送）

「ブッタ・大いなる旅路① インド・輪廻する大地―仏教盛衰の二五〇〇年―」NHKスペシャル（平成一〇年四月二二日放送）

「榎本孝明の薬草マンガラ紀行―立山・インド・チベット 健康と癒しの旅―」フジテレビ（ヴィジュアルフォークロア制作・富山テレビ開局三〇周年記念番組 平成一二年二月六日放送）

「アジア古都物語②」
ベナレス・生と死を見つめる聖地」NHKスペシャル
(平成二十四年二月一七日放送)

東洋思想文化 第二号（東洋大学文学部紀要 東洋思想文化学科篇Ⅱ 第六十八集）抜刷
平成二十七年（二〇一五）三月 発行

六国史に見る般若心経の受容と展開

渡辺章悟

東洋思想文化 第二号（東洋大学文学部紀要 東洋思想文化学科篇Ⅱ 第六十八集）抜刷
平成二十七年（二〇一五）三月 発行

日本の古文獻から見た中國初期禪宗

——大安寺道璿の『集註梵網經』を中心に——

伊 吹 敦

バリ・ヒन्दゥー教の人生儀礼
— 生後3ヶ月の儀礼「トゥルブラニン」を中心に —

山 口 しのぶ

スィク教祖ナーナクの神観念

橋 本 泰 元

敬惜字紙について

—森島中良・瀧澤馬琴の敬惜字紙—

川 崎 ミチコ

研究室報告

① 昨年度と同様、本年度も新入生歓迎行事として四月二〇日に「新入生研修旅行」を行い、群馬県館林市の茂林寺および栃木県足利市の足利学校を見学した。日本の仏教寺院と近世の朱子学の教育機関を見学することができ、東洋思想文化学科の一年生のガイダンスとして実り多い見学会となった。また学生相互あるいは教員との交流を深めることができた。関係各位には厚く御礼申し上げます。

② 九月二十七日には「東洋大学文学部伝統文化講座」の一環として、東洋思想文化学科主催、東洋大学仏教会・同仏教青年会協力にて、真言宗豊山派迦陵頻伽聲明研究会による「聲明公演・智慧の梵風に吹かれて―大般若転読会」を開催した。出演者の皆様には厚く御礼申し上げます。

③ 本年度、特別講義を拝聴した先生は左記の通りである。
Sanskrit Language and Indian Culture (サンスクリット語とインド文化)、シュリーパーダ・スプラマニアム (インド、アーンドラ・プラデーシュ州立東洋写本図書館研究所長・Ph.D.)、十一月六日午後一時三十分～二時三十分・白山キャンパス六号館六二〇五教室)

④ 本年度、大学院(インド哲学仏教学専攻)の公開研究発表会を春学期(六月二十五日)と秋学期(十一月二十七日)に

開催した。春学期は、グスティ・アユ・クトウト・パスパワティ(M2)、ウルジージャルガル(D3)、園田沙弥佳(D3)、山崎一穂(日本学術振興会特別研究員)による研究発表、ならびに梅田愛子、鈴木伸幸、プラマハ・バンジュット三名の大学院新入生研究計画発表があった。秋学期は伊藤頼人(M2)、尾上海(M2)、小林史子(M2)、板敷真純(D1)、山崎一穂(日本学術振興会特別研究員)の研究発表があった。

⑤ 本年度のティーチングアシスタントは、ウルジージャルガル、尾上海、志村淳弘、鈴木伸幸、堤博枝、馬雪峰の各氏が担当した。

⑥ 本年度で退職される宮本久義教授の最終講義が二〇一五年二月三日十八時から十九時まで、本学スカイホールにて開催された。講義題目は「僕がインド哲学者にならなかつた理由」、二百名近くの聴講者を迎え盛況であった。

⑦ 本年度の卒業論文・制作の提出者は、インド哲学科ではI部が五五名、II部が六名であり、中国哲学文学科では三九名、大学院の修士論文提出者はインド哲学文学専攻では四名、中国哲学専攻では三名であった。本年度の優秀論文に対する褒賞は左記の通りである。

・校友会奨学基金
学 部 (インド哲学科) 塚越悠貴(I部)、金子友紀(II部)
(中国哲学文学科) 水早龍介
大学院 (インド哲学仏教学専攻) 伊藤頼人

(中国哲学専攻) 盛田綾希

・勸学奨学基金

学部 (インド哲学科) 吉野峰央(Ⅰ部)、中川裕太(Ⅱ部)

(中国哲学文学科) 海老澤樹雲

・田村芳朗奨学基金(インド哲学科)

学部 西澤 光(Ⅰ部)、佐藤仁美(Ⅰ部)

大学院 グステイ・アユ・クトウト・プスパワテイ

二〇一四年度業績（二〇一四年一月～十二月）

伊吹 敦

○研究活動

〈論文〉

「最澄の禪相承とその意義」（大久保良峻編『天台宗探尋』法藏館、二〇一四年三月三十一日、九三～一二二頁）

「聖徳太子慧思後身説の形成」（単著、『東洋思想文化』創刊号、

二〇一四年三月三十日、一～二七頁）

「異本上宮大師伝』の成立と流布」（『東洋学研究』第五一号、

二〇一四年三月三十一日、四二八～四六二頁）

〈その他〉

「中国の禪宗史」（『栄西と臨済宗』別冊太陽二一五、二〇一四年三月一日、五六～六二頁）

「明の成立と禪（上）」要説・中国禅思想史 三八」（『禅文化』

二二二、二〇一四年一月二十五日、四五～五二頁）

「明の成立と禪（中）」要説・中国禅思想史 三九」（『禅文化』

二二三、二〇一四年四月二十五日、八四～九二頁）

「明の成立と禪（下）」要説・中国禅思想史 四〇」（『禅文化』

二三四、二〇一四年十月二十五日、八一～八七頁）

〈学会活動〉

所属学会ならびに役職

日本佛教学会（理事）／日・韓・中国際仏教学術大会（幹事・

編集委員）／東アジア仏教研究会（役員）／日本印度学仏教

学会（会員）／早稲田大学東洋哲学会（会員）

学会発表等

“Zen, its' Origin and the Future” (THE RELEVANCE OF

TRADITIONAL CULTURES FOR THE PRESENT AND

THE FUTURE, India International Centre, New Delhi,

INDIA, March 25, 2014)

「最澄と聖徳太子慧思後身説」（二〇一四年八月三十日、日本印

度学仏教学会第六五回学術大会、武蔵野大学有明キャンパ

ス）

〈研究プロジェクトへの参加〉

東洋大学東洋学研究所プロジェクト「仏教思想に見る日本・中

国・韓国の共通性と差異」研究代表者

東洋大学国際哲学研究センター（センター長・村上勝三）「東洋

大学」第一ユニット研究員

○教育活動

〈学内担当科目〉

学部・インド学仏教学演習⑦（Ⅰ部、通年）

中国仏教のあゆみA（Ⅰ・Ⅱ部、春学期）

中国仏教のあゆみB（Ⅰ・Ⅱ部、秋学期）

仏教文献を読むA（Ⅰ部、春学期）

仏教文献を読むB（Ⅰ部、秋学期）

禅の思想（Ⅱ部、春学期）

レポート・論文作成の技法（Ⅰ部、春学期）

東洋思想文化への誘いA（Ⅰ部・Ⅱ部、春学期）二回
担当

「中国仏教入門」（六月四日、一時限／六月十四日、七時限）

東洋思想文化への誘いB（Ⅰ部・Ⅱ部、秋学期）二回
担当

「禅思想入門」（二月四日、一時限／十一月二十二日、六時限）

東洋の身体論（Ⅰ・Ⅱ部乗り入れ、春学期）三回担当
「はじめに」（四月九日、七時限）

「修行と悟り―禅は心と体をどう見るか」（六月五日、七時限）

「まごめ」（七月十六日、七時限）
近代化と東洋（Ⅰ・Ⅱ部乗り入れ、秋学期）四回担当

「はじめに」（九月二十四日、七時限）
「中国の近代化と仏教」（十月八日、七時限）

「近代における禅の再発見―鈴木大拙、胡適、和辻哲郎―」（二月四日）

「まごめ」（一月十四日、七時限）
宗教をめぐる諸問題A（Ⅰ・Ⅱ部乗り入れ、春学期）

二回担当

「中国仏教とは何か」（六月五日、六時限）

「中国仏教における聖者」（六月十二日、六時限）
総合ⅧB1（校友会寄附講座、Ⅰ・Ⅱ部乗り入れ、秋学期）一回担当

「哲学館の後継者たちの活躍―境野黄洋、高嶋米峰など」（十一月八日、五時限）

全学総合IA1（Ⅰ部、春学期）一回担当
「修行と悟り―禅は「こころ」と「からだ」をどうみるか―」（六月五日、五時限）

大学院：中国仏教研究Ⅰ・仏教学研究指導Ⅳ（前期課程）

仏教学特殊研究Ⅲ・仏教学研究指導Ⅳ（後期課程）
〈学外担当科目〉

大学院：「東洋哲学特殊問題3」（春学期、早稲田大学）
「東洋哲学特殊問題4」（秋学期、早稲田大学）

○大学管理運営活動
文学部内自己点検・評価委員、東洋大学東洋学研究所研究所長／東洋大学国際哲学研究センター研究員

○社会的活動
公開講座「近代における禅の発見―鈴木大拙・胡適・和辻哲郎―」（東洋大学生涯学習センター公開講座・エクステンション学習講座B〈東洋思想への誘い―近代化と東洋思想―〉、

六月七日、白山キャンパス）
講演「奈良時代における禅宗の流布と伝教大師最澄への影響」

(二〇一四年六月二十七日、叡山学会公開講座、叡山学院)
(公益財団法人) 中村元東方研究所兼任研究員

岩井 昌悟

○研究活動

〈論文〉

「仏陀観・菩薩観の受容と変容―世界一仏・仏の遺骨・菩薩に着眼して」(単著、『東アジアにおける仏教の受容と変容―智の解釈をめぐって』(平成二十三年度〜平成二十五年年度東洋大学東洋学研究所プロジェクト研究報告書(研究代表者:渡辺章悟[東洋大学])二〇一四年三月三十一日、三一〜四二頁)

〈学会発表等〉

「井上円了の教育と仏教―教育は勅語に基づき、宗教は仏教を取る―」(国際井上円了学会・エトヴェシユ・ローランド大学日本学科共催ハンガリー研究会)井上円了と明治時代の日本―哲学宗教教育をめぐって、二〇一四年四月二十五日、エトヴェシユ・ローランド大学)

「近代日本哲学を問い直す」(東洋大学国際哲学研究センター全体シンポジウム『国際化とは何をする事なのか―東洋大学国際哲学研究センターのこれまでとこれから』九月二十四日、東洋大学白山キャンパス)

「日本近世の仏伝の見る日本人の人間観―『釈迦如来誕生会』

と『釈迦御一代記図会』」(国際哲学研究センター第一ユニニット研究会、二〇一四年十二月十日、東洋大学白山キャンパス)学会参加

日本印度学仏教学会第六五回学術大会(武蔵野大学有明キャンパス)に参加、二〇一四年八月三十一日〜九月一日
所属学会ならびに役職

日本印度学仏教学会(会員) / 日本宗教学会(会員) / 日本佛教学会(会員) / 仏教思想学会(会員) / パーリ学仏教学会(普通会員)、日本チベット学会(会員) / 国際井上円了学会(理事・副会長)

〈研究プロジェクトへの参加〉

東洋大学東洋学研究所プロジェクト「仏教思想に見る日本・中国・韓国の共通性と差異」の研究分担者

東洋大学国際哲学研究センター(センター長・村上勝三「東洋大学」第一ユニット長

○教育活動

〈学内担当科目〉

学部・インド学仏教学演習⑤(Ⅰ部)

インド仏教史A・B(Ⅰ・Ⅱ部)

初期仏教の思想(Ⅰ部)

レポート・論文制作の技法A(Ⅰ部)

宗教をめぐる諸問題A・B(Ⅰ・Ⅱ部乗り入れ) コー

ディネーター

「開講にあたっておよび初期仏教とは何か」(四月十九日、六時限)

「初期仏教における聖者」(五月十日、六時限)

東洋思想文化への誘いA (I部・II部、春学期) 二回担当

「初期仏教入門―ニカーヤ・阿含・律」(五月七日、一時限/五月十七日、六時限)

東洋思想文化への誘いB (I部・II部、秋学期) 一回担当

「初期仏教入門―アピタルマ」(五月十七日、一時限/五月十八日、七時限)

東洋の身体論 (I・II部乗り入れ) 一回担当

「仏教の身体論」(五月十四日、七時限)

総合ⅧA1 (校友会寄附講座、I・II部乗り入れ、春学期) 一回担当

「日本をどう考えるのか―井上円了の忠と孝」(五月二十四日、五時限)

全学総合IA 一回担当

「初期仏教における正義と自由」(七月十日、五時限)

○大学管理運営活動

井上円了研究センター運営委員会委員/東洋大学東洋学研究所
研究員・運営委員/東洋大学国際哲学研究センター第一ユニット長

川崎 ミチコ

○研究活動

〈研究報告〉

〈敬惜字紙について(二)〉(二〇一一年度海外研究報告書・

二〇一四年三月末日作成)

〈学会活動〉

所属学会ならびに役職

仏教史学会(会員)・日本中国学会(会員)・道教学会(会員)

○教育活動

〈学内担当科目〉

学部・中国文学特講Ⅱ① (I部)

中国文学演習Ⅲ① (I部)

中国文献読解法 (I部・II部)

中国文献学概論 (I部・II部)

レポート・論文制作の技法 (II部)

漢文訓読法 (II部)

中国文学講読 (I部・II部)

中国の古典(『史記』・『孟子』)

東洋思想文化への誘いA (I部・II部、春学期) 二回担当

担当

「敦煌学入門Ⅰ―敦煌文献とは何?」(五月二十八日、一時限/五月二十四日、六時限)
東洋思想文化への誘いB (I部・II部、秋学期) 二回

担当

「敦煌学入門2——十王思想文献を中心に」(十一月五日、一時限/十一月十五日、六時限)

○大学管理運営活動

全学カリキュラム検討委員会委員

○社会的活動

公開講座「敦煌文献について」(東洋大学生涯学習センター公開講座・エクステンション学習講座B「東洋思想・文化へのいざない」、二〇一四年十一月十五日、東洋大学白山キャンパス)

出張講義

「敦煌文献について」(東京都立隅田川高等学校、二〇一四年六月十八日)

「私たちの生活の中にある〈中国〉について——あなたの干支は何ですか?——」(学校法人錦城学園 錦城高等学校、二〇一四年十二月十八日)

坂井 多穂子

○研究活動

〈翻訳〉

『詩僧皎然集注』(共著) 担当:一〇四〜一一八頁、一七五〜一八一頁 汲古書院 二〇一四年三月

〈その他〉

「中華文人のユーモア」『改革者』六月号 五〇〜五一頁
二〇一四年六月 政策研究フォーラム

〈学会発表等〉

「方法論シンポジウム——方法の越境性、あるいは越境の方法」
二〇一四年七月二日 東洋大学国際哲学研究センター

〈学会活動〉

所属学会ならびに役職

日本中国学会(大会委員会委員) / 中唐文学会(会員) / 日本宋代文学学会(評議員) / 白山中国学会(会計委員)

〈研究プロジェクトへの参加〉

東洋大学国際哲学研究センター(センター長・村上勝三「東洋大学」第二ユニット研究員・運営委員)

東洋大学「エコ・フィロソフィ」学際研究イニシアティブ(TIIP) 自然観探求ユニット研究員

東洋大学東洋学研究所プロジェクト「日本、モンゴル、インド、中国における共生的精神文化の諸相」(研究代表者・山崎甲

一) 研究分担者

○教育活動

〈学内担当科目〉

学部:基礎中国語A・B(I部・II部)

中国語IC・ID

中国文学演習II

中国文学演習Ⅲ

中国文学研究法 A・B (I部・II部)

中国文学特講Ⅱ

漢文訓読法 (I部)

東洋思想文化への誘い A (I部・II部、春学期) 二回

担当

「唐代文学入門 — ロマンチストの李白とリアリス

トの杜甫」(六月二十五日、一時限/七月五日、七

時限)

東洋思想文化への誘い B (I部・II部、秋学期) 二回

担当

「宋代文学入門 — 楽天家の蘇軾と愛妻家の陸游」

(十二月十日、一限/十二月二十日、七時限)

東洋の身体論 (I・II部乗り入れ) 一回担当

「中国文学と身体 — 纏足にみる女性観」(四月

二十三日、七時限)

大学院・中国哲学研究指導Ⅰ (博士前期課程)

中国文学特論Ⅱ (博士前期課程)

中国哲学特殊研究Ⅳ (博士後期課程)

○大学管理運営活動

東洋大学東洋学研究所研究員/東洋大学アジア文化研究所研究

員/東洋大学「エコ・フィロソフィ」学際研究イニシアティ

ブ (TEPPh) 研究員/東洋大学国際哲学研究センター運営委

員・研究員

○社会的活動

公開講座「李白と杜甫」(東洋大学生涯学習センター公開講座・

エクステンション学習講座B「東洋思想・文化へのいざない

——中国思想・文化の諸相——」(二〇一四年十月十八日、

白山キャンパス)

小路口 聡

○研究活動

〈翻訳〉

「王畿『龍溪王先生会語』 訳注 其十六」『白山中国学』通卷

二〇号 二〇一四年一月二九〜六〇頁 *吉田公平・早坂俊

廣・鶴成久章・内田健太と共著

「王畿『龍溪王先生会語』 訳注 其十七」『東洋古典学研究』第

三十七集 二〇一四年五月 五七〜九〇頁 *吉田公平・早

坂俊廣・鶴成久章・内田健太・本多道隆と共著

「王畿『龍溪王先生会語』 訳注 其十八」『東洋古典学研究』第

三十八集 二〇一四年二月 七三〜九二頁 *吉田公平・

早坂俊廣・鶴成久章・内田健太と共著

〈学会活動〉

所属学会ならびに役職

日本中国学会(会員)、白山中国学会(理事・編集委員)、中

国史哲研究会(会員)、東洋古典学研究会(会員)、国際井

上野了学会（会員）、

〈研究プロジェクトへの参加〉

「王畿の良知心学と明末の講学活動に関する発展的研究」（文科

省科学研究費「基盤研究（C）」研究代表者

東洋大学国際哲学研究センター（センター長・村上勝三「東洋

大学」第一ユニット研究員・運営委員

○教育活動

〈学内担当科目〉

学部・東洋思想文化演習Ⅰ⑩AB／中国哲学演習Ⅰ①（Ⅰ部）

中国学概論AB（Ⅰ部・Ⅱ部）

中国哲学特講AB（Ⅰ部）

中国哲学研究法（Ⅰ部）

東洋思想文化への誘いA（Ⅰ部・Ⅱ部、春学期）Ⅰ部

コーディネーター

「ガイダンス説明 コース説明（中国）」（Ⅰ部 四月

九日、一時限／Ⅱ部 四月二十日六時限）

「儒教思想入門——人間の本性は善か、悪か？」（Ⅰ

部 六月十二日、一時限／Ⅱ部 六月二十一日、六時

限）

東洋思想文化への誘いB（Ⅰ部・Ⅱ部、秋学期）Ⅰ部

コーディネーター

「ガイダンス」（九月二十四日、一時限）

「朱子学入門——聖人、学んで至るべし」（十一月

一九日、一時限／十二月二十二日、六時限）

東洋の身体論（Ⅰ・Ⅱ部乗り入れ）一回担当

「儒教の身体論」（六月十日、七時限）

大学院・中国哲学特論Ⅲ（博士前期課程）

中国哲学演習Ⅱ（博士前期課程）

中国哲学研究指導Ⅲ（博士前期課程）

中国哲学特殊研究Ⅲ（博士後期課程）

中国哲学研究指導Ⅲ（博士後期課程）

○大学管理運営活動

第一部東洋思想文化学科長／東洋大学東洋学研究所研究員／東

洋大学国際哲学研究センター研究員

○社会的活動

出張講義「人間の本性は善か？——性善説の人間学——」

（二〇一四年十一月二十六日 千葉県立船橋芝山高등학교）

竹村 牧男

○研究活動

〈著書〉

『禪の思想を知る事典』、東京堂出版、二〇一四年一月、三〇二

頁

〈論文〉

学術講演「近年の高等教育の動向について——人間力育成重視

と仏教の役割」、「日本仏教教育学研究」第二二号、日本仏教

教育学会、二〇一四年三月三〇日、二〇五〜二二七頁。

〈その他〉

「能と禪——世阿弥を中心に」、『在家仏教』、二〇一四年三月号、

二〇一四年三月二日、六八〜八六頁。

「良寛さまと禪の心」、「鉢の子たより」、第二七号、東京良寛会、

二〇一四年四月二日、二〜九頁。

「仏教の生命観——いのちの深みへ」、第三六一回『興福寺仏

教文化講座要旨』、興福寺教学部、二〇一四年五月一〇日、

二四〜四二頁。

「井上円了の思想について」、『浅草寺 仏教文化講座』平成

二十五年、第五八集、浅草寺、二〇一四年八月二〇日、

三三〜四八頁。

「いのちの深みへ——仏教の立場から」、『興福』第一六五号、

興福寺、二〇一四年九月一日、三〜四頁。

村上和雄・竹村牧男対談「仏教・哲学に学ぶ 人生の智慧・教

育の知恵」、連載「生命のメッセージ」第七六回、『致知』、

二〇一五年一月号、二〇一四年二月一日発行、一〇四〜

一〇九頁。

〈学会発表等〉

「明治期の仏教界と井上円了」、東洋大学（国際井上円了学会）、

エトヴェシユ・ローランド大学共催研究会「井上円了と明

治時代の日本——哲学・宗教・教育をめぐって」、午前の部

「明治期の哲学者・教育者 井上円了」、二〇一四年四月二五

日、エトヴェシユ・ローランド大学（ブダペスト）。午前部
の六人発表のうち、後半三名の司会も担当。

「西田と大拙の真宗理解をめぐって」、西田哲学会第二二回年次

大会シンポジウム「西田幾多郎と鈴木大拙」、二〇一四年七

月二〇日、西田幾多郎記念哲学館（石川県かほく市）

〈講演〉

「言語と存在——仏教の立場から」、素修会例会、二〇一四年二

月一八日、日本工業倶楽部（東京・丸の内）

「仏教の生命観」、興福寺仏教文化講座、二〇一四年四月一二日、

奈良・興福寺会館

「日本人の宗教生活と仏教」、東洋大学（国際井上円了学会）、

エトヴェシユ・ローランド大学、国際交流基金ブダペスト日

本文化センター共催、二〇一四年四月二四日、エトヴェシユ・

ローランド大学（ブダペスト）。

「東洋大学の創立者 井上円了の人と思想」、興福寺仏教文化講

座（東京、二〇一四年五月一五日）、文化学園（東京・代々木）

「良寛さまの禅の世界——『法華讃』のこころ」、第三七回全国

良寛会出雲崎大会、二〇一四年六月七日、出雲崎町民体育館

（新潟県三島郡）

「仏教の自然観」、第三〇回ホモコントリビュエンス研究会、

二〇一四年六月一五日、中国飯店「富麗華」（東京都港区東

麻布）

「ディーブエコロジーと宗教」、仏教タイムス主催「生長の家」森

のオフィス、見学研修会、二〇一四年六月二七日、生長の家国際本部、森の中のオフィス（山梨県北杜市大泉町）

「鈴木大拙の『東洋的な見方』について」、一般社団法人在家仏教協会「鈴木大拙を読み直す―鈴木大拙を学び、生き方を考える―」（全一〇回講演）、二〇一四年六月二八日、協和発酵キリン株式会社会議室（大手町ビ五階）

「哲学としての仏教について―言語と存在の関係を考える」、三水会例会、二〇一四年八月四日、関西大学東京センター（丸の内・サピアタワー九階）

「（いのち）への共感の哲学―日本的靈性をめぐって」、平成二六年度公益社団法人生命科学振興会北海道支部市民公開フォーラム「日本の風土に根ざす哲学と宗教」、二〇一四年八月三〇日、かでの2・7（道民活動センター）（札幌市）

「『事究明としてのエコ・フィロソフィ』、天理大学おやさと研究所第一一回「宗教と環境」研究会、二〇一四年九月六日、天理大学おやさと研究所会議室（奈良県天理市）

「禅の現代的意義について―鈴木大拙の思想に学ぶ」、公益財団法人 禅文化研究所創立五十周年記念式典記念講演、二〇一四年一〇月一〇日、花園大学教室ホール（京都市内）

「仏教の自然観とエコ・フィロソフィ」、龍谷大学アジア仏教文化研究センター全体研究会、二〇一四年一〇月二四日、龍谷大学大宮校舎本館（京都市内）

「空海を語る」、書・齋藤翠恵「空海」を想う、オープニングセ

レモニー、二〇一四年一〇月三〇日、一穂堂（銀座）、

「共生思想の歩みと課題―仏教からの一考察」、公益財団法人世界宗教者平和会議（WCRP）平成26年度第5回研究会、二〇一四年一二月二〇日、普門館四〇二会議室

「いのちの奥にあるもの―仏教の立場から」、生命科学振興会東京支部第三回研究会、二〇一四年一二月二日、東洋大学白山校舎六二〇二番教室

「茶道の精神に対する禅の影響について」、ロムアルド・デル・ビアンコ財団における東洋大学による日本文化紹介の会、二〇一四年一二月二六日、フィレンツェ・コッピニーニ宮

〈講義等〉

「井上円了の人と思想について」、ライフデザイン学部主催学長講演会、二〇一四年五月二八日、朝霞キャンパス講義棟二一四教室

「現代に生きる学祖の哲学と大学の現状」、平成二六年度東洋大学校友会千葉県支部の集い、二〇一四年六月八日、三井ガーデンホテル千葉

「日本人の哲学―空海から西田へ」、筑波大学特別講義―大学と学問―、二〇一四年六月二日、筑波大学・大学会館講義堂（茨城県つくば市）

「東洋大学の教育方針について―グローバル人材の育成をめざして」、東洋大学浦水会茨城支部・平成二六年度第四六回通常総会、二〇一四年七月五日、ホテルマロウド筑波（茨城

県土浦市)

「東洋大学の教育理念」、理工学部「エンジニアのための哲学」
「実践職業論」(川越キャンパス育成会寄付講座) 合同授業、
二〇一四年七月二十四日、川越キャンパス一号館一三〇一教室
(その他)

宗教・研究者エコイニシアティブ第5回宗教と環境シンポジウ
ム「変えようくらし、守ろう地球―いのちを活かしあう新た
な文明原理の探究と実践」を代表として主宰、本シンポジウ
ムにおける「大会宣言」を起草

「仏教はこころの世界遺産」、NHKラジオ深夜便「明日への言
葉」、二〇一四年一月二十五日

〈学会活動〉

所属学会ならびに役職

日本印度学仏教学会(評議員) / 日本宗教学会(理事) / 比
較思想学会(理事) / 仏教思想学会(会員) / 東方学会(会
員) / 共生社会システム学会(理事)

〈研究プロジェクトへの参加〉

東洋大学東洋学研究所研究員

東洋大学「エコ・フィロソフィ」学際研究イニシアティブ

(TIEPh)・自然観探究ユニット研究員

東洋大学国際哲学研究センター・第一ユニット研究員

国際井上円了学会会長(二〇一四年九月まで)・同学会

○教育活動

〈学内担当科目〉

文学部・インド哲学仏教学演習 / インド学仏教学演習 I 10 (II
部、通年)

東洋思想文化演習 I 2 (II部、通年)

インド哲学仏教学演習 / 卒論指導 I 2 (II部、通年)

大学院・日本仏教史 I・仏教学研究指導 III (前期課程)

仏教学特殊研究 IV・仏教学研究指導 III (後期課程)

○大学管理運営活動

学長・理事

沼田 一郎

○研究活動

〈論文〉

[*ṛiṣāḍāna-tīra-śāḍāna* (債務の不履行) or *ṛiṣā-śāḍāna* (債権の
回収)] 単著、『東洋思想文化』第一号〈東洋大学文学部紀要〉

第六七集、二〇一四年二月二十八日、四五〜五二頁)

〈学会活動〉

所属学会ならびに役職

日本南アジア学会(会員・英文叢書委員会委員・監事) / 日
本印度学仏教学会(会員) / 日本佛教学会(会員) / アジア

法学会(会員) / 国際井上円了学会(会員) /

研究発表・シンポジウム・講演・特別講義

「ヴェーダーガータの聖地での輪廻問答」(東洋大学東洋学研究
所研究発表会、二〇一四年十月二五日、東洋大学白山キャン
パス)

「人間は何を知り、何を考えてきたのか?—伝統的な知の集
積と近代科学の接点を探る—」(東洋大学学術研究推進セン
ター主催・東洋大学国際哲学研究センター共催シンポジウム
司会)にて司会(二〇一四年十一月八日、東洋大学白山キャ
ンパス)

「インド伝統法の諸相—dharmaの歴史的変遷—」(北海道大学
法理論研究会例会報告、二〇一四年十二月二〇日、北海道大
学)

〈研究・調査活動〉
〈研究プロジェクトへの参加〉

東洋大学国際哲学研究センター(センター長・村上勝三「東洋
大学」)運営委員・第二ユニット長・研究員

東洋大学東洋学研究所研究プロジェクト「インドの死生観の研
究—聖典・聖地・都市構造にみるインドの死生観」研究分担者。

○教育活動

〈学内担当科目〉

学 部・サンスクリット文献を読むA・B (I部)

古代インドの社会 (I部)

インド学仏教学演習① (I部)

インド学仏教学演習 (II部)

インド古典哲学 (II部)

日本の宗教を歩く(集中講義)

海外文化研修(集中講義・副引率者)

東洋思想文化への誘いA (I部・II部、春学期) 二回
担当

「古代インド社会論入門—カースト社会における
在家と出家」(五月二十一日、一時限/六月二十八
日、七時限)

東洋思想文化への誘いB (I部・II部、秋学期) 二回
担当

「ヒンドゥー文化入門—インド文化は哲学のみに
あらず」(十月二十九日、一時限/十一月八日、七時限)

全学総合IA一回担当

「古代インドにおける実践倫理」(七月三日)

総合ⅧA 日本の近代化と東洋大学—井上円了の哲学
と実践—(校友会寄附講座)

「第九回 井上円了の外道哲学—日本のインド学
の曙—」(二〇一四年六月十四日)

○大学管理運営活動

第II部東洋思想文化学科長/東洋大学東洋学研究所研究員・運
営委員/東洋大学東洋学研究所『東洋学研究』編集委員/国
際哲学研究センター運営委員・研究員

○社会的活動

公開講座「近代化と東洋思想」インド思想と近代化（東洋大学
生涯学習センター公開講座・エクステンション学習講座B）（東
洋思想への誘い―近代化と東洋思想―）二〇一四年五月一〇
日、東洋大学白山キャンパス）
模擬講義

「哲学についての模擬講義」（二〇一四年六月一八日 文京高
等学校）
「考えることを考える」ということを考えてみる」（二〇一四
年一〇月二五日 小野学園女子高等学校）

野間 信幸

○研究活動

〈著書（翻訳書）〉

『たばこ小屋・故郷 鍾理和中短篇小説集』、研文出版、（単著、
二〇一四年十二月二十日、「解説」（一八一―二〇五頁）を含
み至二〇五頁）

〈論文〉

「張文環の生涯と文学活動」（単著、「台湾近現代文学史」収、
研文出版、二〇一四年五月二十四日、一四三―一五五頁）
〈研究発表〉

「鍾理和という作家について」（白山中国学会第六回研究発表大
会、東洋大学、二〇一四年三月二十二日）

〈学会活動〉

所属学会ならびに役職

日本中国学会（会員）／日本台湾学会（学会報編集委員）／
天理台湾学会（理事）／日本現代中国学会（会員）／東洋大
学中国学会（会長）／中国文芸研究会（会員）
学会会参加等

日本台湾学会第一六回学術大会（東京大学、二〇一三年五月
二十四日）
天理台湾学会第二四回研究大会（天理大学、二〇一四年六月
二十八日）

○教育活動

〈学内担当科目〉

学部：中国文学史概説

中国文学史A・B

中国文学演習I（I部・II部）

東洋思想文化演習I（I部・II部）

中国文学特講I

中国文学特講IA・B

中国文学研究法

総合ⅧB1（校友会寄附講座、I・II部乗り入れ、秋
学期）一回担当

「円了の台湾巡講―南船北馬2（台湾巡講）」十月
十八日

東洋思想文化への誘いA（Ⅰ部・Ⅱ部、春学期）二回

担当

「中国文学入門——中国語と中国文学の深い関係」

（五月十四日、一時限／七月五日、七時限）

東洋思想文化への誘いB（Ⅰ部・Ⅱ部、秋学期）二回

担当

「中国現代文学入門——近代文化人の傷痕」（十月

二十二日、一時限／十月二十五日、七時限）

近代化と東洋（Ⅰ・Ⅱ部乗り入れ、秋学期）一回担当

「台湾の近代化と学歴を巡る旅——東洋大学に在籍

した作家張文環の帝都体験」（十一月十九日、七時

限）

大学院・中国文学特論Ⅰ・中国哲学研究指導Ⅱ（前期課程）

中国哲学特殊研究Ⅰ・中国哲学研究指導Ⅰ（後期課

程・休講）

○大学管理運営活動

大学院文学研究科中国哲学専攻専攻長／文学部入試委員会委員

／校友会学生研究奨励基金運営委員会委員／東洋大学アジア

文化研究所研究員

○社会的活動

「中国文学に脈打つ『生きる』知恵」（夢ナビライブ、フロムペー

ジ主催、ポートメッセ名古屋、七月二十二日）

アジアセンター21維持会員

橋本 泰元

○研究活動

〈論文〉

「スイク教聖典編纂者クルハアルジャンの生涯——歴史と伝承の

なかで——」（単著、『東洋思想文化』第一号〈東洋大学文

学部紀要』第六七集〉、二〇一四年二月二十八日、八六）

一〇三頁）

〈学会活動〉

所属学会ならびに役職

日本印度学佛教学会（理事）／日本宗教学会（会員）／日本

南アジア学会（会員）／

日本佛教学会（会員）

〈研究プロジェクトへの参加〉

「インドの死生観の研究——聖典・聖地・都市構造にみるイン

ドの死生観——」（東洋大学東洋学研究所プロジェクト・井

上円了研究助成二〇一三年度～二〇一五年度・研究代表者）

「多言語重層構造をなすインド文学史の先端的分析法と新記述」

〈二〇一三年度科学研究費補助金基盤研究（A）研究代表者・

水野善文（東京外国語大学連携研究者）

東洋大学国際哲学研究センター（センター長・村上勝三〔東洋

大学〕第三ユニット研究員

○教育活動

〈学内担当科目〉

学部：ヒンドゥー教概論 A・B (I・II部)

ヒンディー語 A・B (I部)

インド学仏教学演習③ (I部)

仏教の芸能 (秋学期、コーディネーター) (II部)

海外文化研修 I (九月七日～一四日、デリー・パナール

ラス・アーグラ、参加者一六名)

宗教をめぐる諸問題 A・B (I・II部乗り入れ)

「ヒンドゥー教における聖者② (中世)」(十一月

二一日、六時限)

「スイク教と聖者」(十一月二九日、六時限)

東洋思想文化への誘い A (I部・II部、春学期) 二回

担当

「叙事詩の語る世界観」(七月二日、一時限/七月

十二日、七時限)

東洋思想文化への誘い B (I部・II部、秋学期) 二回

担当

「ヒンドゥー教の根本思想」(十二月十七日、一時限

/一月一〇日七時限)

文学部伝統文化講座「聲明講演」(九月二七日主催)

総合Ⅷ B 1 (校友会寄附講座、I・II部乗り入れ、秋

学期) 一回担当

「哲学館初期のカリキュラムの特色―哲学を如何に教育するのか」(七月十二日、五時限)

大学院：インド哲学研究Ⅱ・インド哲学研究指導Ⅲ (前期課程)

インド哲学特殊研究Ⅱ・インド哲学研究指導Ⅱ (後期

課程)

〈学外担当科目〉

大正大学学部：ヒンディー語 I・II・III・IV (総合)

○大学管理運営活動

東洋大学東洋学研究所研究員・運営委員/東洋大学国際哲学研

究センター研究員/文学部グローバル化推進委員会委員

委員会委員

○社会的活動

団体役員等

(特財) 大法輪石原育英会評議員

宮本 久義

○研究活動

〈論文〉

「ヴァイディヤナーテシシュヴァラ・ジョーティルリಂಗ縁起

譚」(単著、『東洋思想文化』第一号〔東洋大学文学部紀要〕

第六七集、二〇一四年二月二十八日、一〇四～一一四頁)

〈学会発表等〉

「多文化共生と国際化」(東洋大学国際哲学研究センター全体シ

ンポジウム『国際化とは何をする 것인가―東洋大学国際
哲学研究センターのこれまでとこれから』九月二十四日、東
洋大学白山キャンパス)

“Individual and Society in Hinduism” (研究集会『多文化共生
社会に向けて―宗教・思想に何ができるか?』八月十八日
(オーストリア・インスブルック大学))

“The acceptance and transformation of Buddhism in Japanese
culture” (東洋大学リユブリヤーナ大学の大学間協定締結
記念シンポジウム『国際的パースペクティブの構築―東洋と
西洋の架橋をめざして―』十月十三日(スロヴェニア・リュ
ブリヤーナ大学))

「宗教と共生―インドの多元的社会からみた共生の問題」(国際
哲学研究センター第三ユニット研究会・オーストリア出張報
告、十月二十二日、東洋大学白山キャンパス)

〈学会活動〉

所属学会ならびに役職

日本南アジア学会(会員、九月三十日まで常務理事)／日本
印度学仏教学会(評議員)／日本宗教学会(会員)／日本佛
教学会(会員)／建築史学会(会員)／早稲田大学東洋哲学
会(理事)

〈研究・調査活動〉

「ミャンマーにおける多文化共生現地調査」二月二十八日～三
月四日、ヤンゴン、マンダレーにて仏教瞑想センター視察を

中心に他宗教との共生実態調査を行う)

「オーストリアにおける多文化共生研究集会・国際学会参加」
八月十七～二十五日、インスブルック大学にて「多文化共生
社会に向けて―宗教・思想に何ができるか?」をテーマとす
る研究集会で発表、ウィーン大学にて国際仏教学会参加

「スロヴェニア・リュブリヤーナ大学におけるシンポジウム参
加」十月十二～十七日、東洋大学との学術交流協定締結記念
シンポジウムにて発表

〈研究プロジェクトへの参加〉

東洋大学国際哲学研究センター(センター長・村上勝三「東
洋大学」)第三ユニット「課題・多文化共生社会の思想基盤
研究」に所属し、南アジアにおける多文化・多宗教共生の研
究を行う)

東洋大学東洋学研究所プロジェクト(井上円了研究助成
二〇一三～二〇一五年度)「インドの死生観の研究―聖典・
聖地・都市構造にみるインドの死生観」(研究代表者・橋本
泰元)の研究分担者として、インドの聖地と死生観の研究調
査を行う)

○教育活動

〈学内担当科目〉

学部・インド古典哲学A・B (I部)

インド現代思想 (II部)

現代のインド (II部)

ヨーガとアーユルヴェーダ (I部)

卒論指導 (I部)

全学総合IA「エコ・フィロソフィ入門」(I・II部

乗り入れ) 一回担当

「ガンジス川をめぐるインドの環境問題」(十二月

十一日)

全学総合IA②「哲学への誘い」(I・II部乗り入れ)

一回担当

「ヨーガにおける心と身体」(六月十二日)

全学総合IA「妖怪学」(I・II部乗り入れ) 一回担

当

「インドにも百鬼夜行」(六月三日)

東洋思想文化への誘いA (I部・II部、春学期) 二回

担当

「インド思想入門1ーヴェーダの宗教と思想」(四

月二十三日、一時限/四月二十六日、七時限)

東洋思想文化への誘いB (I部・II部、秋学期) 二回

担当

「インド思想入門2ーインド哲学はなにを指す

か」(十月一日、一時限/十月四日、七時限)

東洋の身体論 (I・II部乗り入れ) 一回担当

「インド哲学における身体観」(四月十六日、七時限)

近代化と東洋 (I・II部乗り入れ) 一回担当

「近代化とインドの伝統思想」(十月一日、七時限)

宗教をめぐる諸問題AB (I・II部乗り入れ) 二回担

当

「ヒンドゥー教とは何か」(五月二十四日、六時限)

「ヒンドゥー教における聖者②」(近現代)」(十二月

六日、六時限)

大学院・サンスクリット文献研究I・インド哲学研究指導I(前

期課程)

インド哲学特殊研究I・インド哲学研究指導I(後期

課程)

〈学外担当科目〉

印度語学印度文学特殊講義「声に出して読むサンスクリット戯

曲」東京大学文学部、大学院人文社会学系研究科(夏学期)

専門語学「サンスクリット語」国際仏教学大学院大学(通年)

○大学管理運営活動

東洋大学東洋学研究所研究員/東洋大学国際哲学研究センター

研究員・副センター長・第三ユニット長/東洋大学文学部キャ

リア・就職推進委員会委員

○社会的活動

講座「仏典とインドの古典を読む会」東京大学仏教青年会、十

月二十三日、三十日、十一月六日、十三日、東京大学仏教青

年會会館

東京大学仏教青年会評議員

山口 じゆん

○研究活動

〈論文〉

「グシユメーシユヴァアラ・ジョーティルリンガの出現―シヴァ・ブラーナ」第四卷『コーテイ・ルドラ・サンヒター』第三三章和訳―『東洋思想文化』第一号〔『東洋大学文学部紀要』第六七集〕二〇一四年二月二十八日、七一～八五頁。

〈口頭発表〉

“Hinduism and Buddhism in Nepal―The Cult of Kumari as a Symbol of Pluralism―” (International Seminar, “Respect for Religious Pluralism and Multi-cultural”, Institut Hindu Dharma Negeri, Denpasar, Bali, Indonesia, 十月二十四日)

〈学会活動〉

所属学会ならびに役職

日本印度学仏教学会（会員）／日本宗教学会（会員）／南アジア学会（会員）／日本佛教学会（会員）／日本西蔵学会（会員）

密教画像学会（会員）／東海印度学仏教学会（会員）

〈研究プロジェクトへの参加〉

東洋大学国際哲学研究センター（センター長・村上勝三「東洋大学」第三ユニット研究員

〈調査活動〉

インドネシア、バリ島における宗教儀礼・凶像の実態調査（八月六日～八月二十一日）

○教育活動

〈学内担当科目〉

学部・インド学仏教学演習Ⅰ、Ⅱ⑧（Ⅰ部）

卒論指導⑧（Ⅰ部）

東洋思想文化演習Ⅰ⑧（Ⅰ部）

東洋思想文化演習Ⅰ③（Ⅱ部）

チベット語A・B（Ⅰ部）

東洋思想文化への誘いA（Ⅰ部・Ⅱ部、春学期）

「東洋芸術文化入門Ⅰ―仏教・ヒンドゥー教の美術」（六月一日、六時限／六月十八日、一時限）

東洋思想文化への誘いB（Ⅰ部・Ⅱ部、秋学期）一回担当

「東洋芸術文化入門Ⅱ―東南アジアの芸術文化」（十一月二十七日、一時限／十二月六日、六時限）

チベット仏教のあゆみ（Ⅰ部、Ⅱ部）

インド・仏教の美術A・B（Ⅰ部）

総合ⅢB「東洋大学井上円了哲学塾」哲学基礎講座・実践哲学講座（Ⅰ・Ⅱ部乗り入れ）

近代化と東洋（Ⅰ・Ⅱ部乗り入れ、秋学期）一回担当
「近代化とチベット」（十月十五日、七時限）

宗教をめぐる諸問題A・B（Ⅰ・Ⅱ部乗り入れ）

「チベット仏教とは何か」（十一月八日、六時限）

「チベット仏教における聖者」（十一月十五日、六時

限)

総合ⅣB1(校友会寄附講座)「日本の近代化と東洋
大学―井上円了の哲学と実践―」(Ⅰ・Ⅱ部乗り
入れ) 一回担当

「哲学館からチベットへ―明治の取経僧・河口慧
海と能海寛」(十一月十五日、五時限)

全学総合IA1「哲学への誘い」(Ⅰ・Ⅱ部乗り入れ)

一回担当

「世界と自己―密教のマンダラにおける世界と自
己」(五月十五日)

大学院・大乘仏教学研究Ⅱ・仏教学研究指導Ⅱ(前期課程)

仏教学特殊研究Ⅱ・仏教学研究指導Ⅱ(後期課程)

○大学管理運営活動

東洋大学東洋学研究所研究員/東洋大学アジア文化研究所研究
員/東洋大学国際哲学研究センター研究員/文学部予算委員
会委員

○社会的活動

高大連携遠隔授業(東洋大学附属姫時高等学校向け)「見てみ
よう、アジアの生活と文化―インドネシア、バリ島の人々の
生活とヒンドゥー教文化―」(九月八日、白山キャンパス)

東洋大学井上円了哲学塾コーディネーター(九月二十七日、
十二月二十日、東洋大学白山キャンパス)

公開講座「近代化とチベット仏教」(東洋大学生涯学習センター)

公開講座・エクステンション学習講座B(東洋思想への誘い
―近代化と東洋思想―)、二〇一四年五月二十四日、東洋大
学白山キャンパス)

山田 利明

○研究活動

〈研究発表〉

「火で洗う布―火浣布」(國學院大學中国学会(於國學院大學)、
二〇一四年七月五日)

‘Japanese Modernization and Kangaku漢学Studies’ 1st Inter-
national Symposium of Toyo Univ. and Univ. of Ljubljana.
Univ. of Ljubljana. Oct. 13th, 2013.

〈講演〉

「某些仙術の変遷―論劾鬼―」(財団法人日本タオイズム協会
(於東京ヒルトンホテル)、二〇一四年八月三〇日)

〈その他〉

「天命」、「サステナ」三二号、社団法人SSC 二〇一四年三月
三日

「邯鄲夢の枕」、「サステナ」三三三号、社団法人SSC 二〇一四
年七月八日

「八丈島」、「サステナ」三四号、社団法人SSC 二〇一四年
一〇月三〇日

〈学会活動〉

所属学会・役職

日本中国学会（評議員）、日本道教学会（理事）、日仏東洋学会（公員）、The Society for the Study of Chinese Religion（公員）

〈研究プロジェクト〉

東洋大学エコフイロソフイ学際研究イニシアティブ（機構長）

○教育活動

〈学内担当科目〉

学部：中国哲学演習Ⅰ

中国哲学特講Ⅱ

中国哲学史概説

総合Ⅰ

東洋思想文化への誘いA（Ⅰ部・Ⅱ部、春学期）二回

担当

「中国哲学入門——天の思想と人のあり方」（五月一日、一時限／五月十一日、六時限）

東洋思想文化への誘いB（Ⅰ部・Ⅱ部、秋学期）二回

担当

「道家哲学入門——無と自然」（十月五日六時限／十月九日一時限）

東洋の身体論（Ⅰ・Ⅱ部乗り入れ、春学期）一回担当

担当

「道教の身体観」（七月七日、七時限）

大学院：中国哲学特殊研究Ⅴ

中国哲学研究指導Ⅴ（以上後期課程）

中国哲学演習Ⅰ

中国哲学研究Ⅰ

中国哲学研究指導Ⅳ（以上前期課程）

○大学学部管理運営

大学院文学研究科長、

○社会的活動

一般社団法人サステナビリティ・サイエンス・コンソーシアム

理事

渡辺 章悟

○研究活動

〈著書〉

『般若経の三乗と菩薩乘』及び『般若経における智慧（般若波

羅蜜）の展開』（『東アジアにおける仏教の受容と変容——智の

解釈をめぐって』東洋学研究所プロジェクト報告書、研究代

表者・編者：渡辺章悟、東洋大学東洋学研究所刊、二〇一四

年三月、一〇一九頁及び二一〇—三〇頁）

『井上円了の世界旅行——旅する創立者——海外編——』（『井上円了

ブックレット』学校法人東洋大学刊行、二〇一四年三月、

全四四頁。

〈論文〉

「般若経における菩薩乗の意味」(単著、『印度学仏教学研究』第六二巻二号、二〇一四年三月、一七三―一八一頁)

〈学会発表〉

韓枝延「中国仏教伝来期の西域での部派と大乘の対立に関する試論」に対するコメント、(第三回「日・中・韓 国際仏教学術大会プログラム」於東洋大学、二〇一四年六月二―一日、

頁)

研究発表 Compassion (*Karunā*) and Pity (*Anukampā*) in

Mahāyāna Sūtras 国際哲学研究センター第三ユニットの海外研究「多文化共生社会に向けて―宗教・思想に何ができるか?―という統一テーマ、オーストリア・インスブルック大学セミナー室、二〇一四年八月―一日)

学会コメント、石川美恵『法門備忘録』における蘊の定義―色蘊・受蘊・想蘊・行蘊について― 仏教思想学会第三〇回学術大会、於東京大学、二〇一四年七月十二日

学会コメント、日本仏教学会第八十四回学術大会(於種智院大学)にて、以下三名の研究発表に対するコメント(①高橋審

也「大乘仏教の理念と浄土教」、②阿理生「観音菩薩―大乘仏教における実践の理念とその実像」、③谷口富士夫「金剛般若経から社会的実践へ」、二〇一四年九月九日

「大乘経典における慈悲と憐愍」、国際哲学研究センター第三ユニットの第一回連続研究会、統一テーマ「多文化共生社会に

向けて―宗教・思想に何ができるか?」、二〇一四年一〇月二―日、6号館第一会議室

「般若経に説かれる般若」(パウッダコーシヤ・プロジェクト・

齊藤明代表) 第二回公開シンポジウム「仏教用語の今昔―翻

訳はいかにして可能か」第二部特別シンポジウムのテーマ

「*prajñā*/*paññā*の翻訳をめぐる」二〇一四年二月一日、

東京大学。

〈特別講義〉

「大乘の菩薩道」NPO法人中村元記念館・(公財)中村元東方

研究所の集中講義、島根県松江市、二〇一四年八月二日・三

日

「音と絵で読む仏教の聖典」東洋大学出張講義、於鴻巣高校、

二〇一四年十一月六日

〈講演〉

「大乘仏教のトップランナーとしての般若経」(東京国際仏教塾、

東京大学仏青会館、二〇一四年五月三十一日)

「ブッダの智慧」室蘭市悠々ライフ教養講座、室蘭市文化セン

ター、二〇一四年九月十一日

「般若心経の眼目は、空かマントラか」黄檗勉強会、二〇一四

年一〇月二八日、豊高区洞雲寺

「明治の青春群像と井上円了」下田市教育委員会主催、下田市

民会館小ホール、二〇一四年、十一月一九日

〈その他〉

「般若心経の成立と展開」『大法輪』第八一卷（平成二六年度）
第二号、大法輪閣、二〇一四年二月、八二〜八六頁。

「大学仏書の今昔」花まつりにちなみ「週刊佛教タイムス」
二〇一四年（平成二六年度）四月三日、第五面

「大乘仏教のトップランナーとしての般若経」『佛教文化』第
一七〇号、二〇一四年八月一〇日、二一〜六頁

〈学会活動〉

所属学会ならびに役職

日本印度学仏教学会（理事・常務委員・評議員・企画編集委
員）／仏教思想学会（理事・評議員）／日本西藏学会（委員）

／東方学会（地区委員）／日本宗教学会（評議員）／日本佛
教学会（会員）／東アジア仏教学会（会員）／国際仏教学会

IABS（会員）／比較思想学会（会員）

学会参加等

仏教思想学会第三〇回学術大会、東京大学本郷キャンパス、
二〇一三年七月十二日（理事会・研究発表会（司会）に参加

日本印度学仏教学会第六五回学術大会に参加、武蔵野大学・
有明キャンパス、二〇一四年八月二十九日〜八月三十一日

（常務委員・理事として常務委員会・理事会にも参加

日本仏教学会第八十四回学術大会に参加、種智院大学、
二〇一四年九月九日・一〇日（三名の発表者のコメントを

担当）

XVth Congress of the International Buddhist Studies

University Vienna Austria August 18-23, 2014に参加。

〈調査活動〉

「京都・奈良の宗教行事に見る多文化共生の実態の調査および
僧侶からのインタビュー調査」二〇一四年十二月三〇日〜
二〇一五年一月二日

〈研究プロジェクトへの参加〉

東洋大学国際哲学研究センター（センター長・村上勝三「東洋
大学」第三ユニット「課題・多文化共生社会の思想基盤研究」
に所属し、仏教を中心とした多文化・多宗教共生の研究を行
う。

東洋大学東洋学研究所プロジェクト「仏教思想に見る日本・中
国・韓国の共通性と差異」研究代表者伊吹敦、研究分担者

「パウッタコーシヤ・仏教用語の『日英基準訳語集』構築に向
けての総合的研究」（文科省科学研究費「基盤研究（A）」、
研究代表者・斎藤明「東京大学」、研究分担者）

○教育活動

〈学内担当科目〉

学 部：ブッダの思想とその展開 A・B（Ⅰ・Ⅱ部）

大乘仏教の思想Ⅰ（Ⅱ部）

インド学仏教学演習④（Ⅰ部）

インド学仏教学演習（Ⅱ部）

文学部総合科目Ⅰ（Ⅰ・Ⅱ部共通）

東洋思想文化への誘いA（I部・II部、春学期）二回
担当

「大乘仏教入門Ⅰ―大乘仏教はブッダの説なのか」
（七月九日、一時限／七月十九日、六時限）

東洋思想文化への誘いB（I部・II部、秋学期）二回
担当

「大乘仏教入門Ⅱ―大乘仏教を貫くもの」
（二〇一四年一月八日、一時限／二〇一四年一月
十一日、六時限）

宗教をめぐる諸問題A・B（I・II部乗り入れ）二回
担当

「大乘仏教とは何か」（四月二十六日、六時限）
「大乘仏教における聖者」（五月十七日、六時限）

総合ⅧA・BⅠ（校友会寄附講座、I・II部乗り入れ）
運営責任者ならびに六回の授業担当

「井上円了の生涯をかけた熱き戦い―最後の著作
『奮闘哲学』による」（二〇一四年一月五日、五時限）

「講座のまとめ・平常試験」（二〇一四年一月十九日、
五時限）

「井上円了は何を目指し、何を実現しようとしたか
―その生涯と実践」（四月十二日、五時限）

「井上円了が受けたカルチャーショック―円了は海
外で何を見、何を考えたのか」（七月十九日、五

時限）

「春学期講義のまとめ・通常試験」（七月二十四日、
五時限）

「哲学館から東洋大学へ」（九月二十七日、五時限）
学位論文審査

「モンゴル語訳『八千頌般若経』の文献学的研究」オ
ダム（博士「乙」論文）主査

大学院：大乘仏教研究Ⅰ・仏教学研究指導Ⅰ（博士前期課程）
仏教学特殊研究Ⅰ・仏教学研究指導Ⅰ（博士後期課程）

〈学外担当科目〉
大正大学大学院「MD仏教学特論A・B」春学期・秋学期
国際仏教学大学院大学「仏教学と環境問題」秋学期集中講義

○大学管理運営活動

東洋大学学生生活委員会（委員）／東洋大学東洋学研究所（運
営委員・研究所員）／東洋大学国際哲学研究センター研究員

／大学院文学研究科インド哲学仏教学専攻長
○社会的活動

（公財）仏教伝道協会・英訳大藏経編集委員会（委員）・仏教聖
典編集委員会（委員）・助成金審査委員会（委員）／（般財）

東方学会（地区委員・会員）／（公財）東方研究会（研究員）
／（特財）大法輪石原育英会奨学生選考委員会（委員）／東

洋大学仏教会（会長）、（公財）中村元東洋思想文化賞審査委
員会（審査員）

二〇一四年度開講科目

・授業名、サブタイトル、担当者の順に記す。

・通年科目はA（春学期）・B（秋学期）に分かれるが、担当者が同一であり、かつ、サブタイトルが春秋通じて同一の場合、その区分は省略して記した。

・ただし、半期だけの授業については《春》《秋》と表記した。

・担当者および《春》《秋》の授業区分に付したカッコ内の数字は、それぞれⅠ部・Ⅱ部の区別を示す。カッコが付されていないものは、Ⅰ部Ⅱ部隔年開講の科目か、Ⅰ部・Ⅱ部の担当者が同一であることを示す。

〈学部〉（五十音順）

東洋思想文化学科

イスラーム概論《秋》（イスラームの捉え方） 柴山 滋

インド現代思想《春》（インド近・現代の宗教思想家）

インド古典思想概論A B（インド思想史） 宮本久義（Ⅰ）

インド古典思想概論A（インド古典哲学概説） 沼田一郎（Ⅱ）

インド古典思想概論B（インド古典哲学の諸課題） 沼田一郎（Ⅱ）

インド思想特講ⅠA（古代インド社会の構造と法）概念の展開 宮本 城（Ⅰ）

沼田一郎

石川寛（Ⅰ）

石川寛（Ⅰ）

宮本久義（Ⅱ）

矢島道彦（Ⅰ）

丹羽京子

宮本久義

宮本久義

岩井昌悟

岩井昌悟

岩井昌悟

山口しのぶ（Ⅰ）

山口しのぶ（Ⅰ）

朴亨國（Ⅱ）

久保田幸代

小西公大

宮本 城（Ⅰ）

インド文化概論B《秋》(ヴィンディヤ山脈の頂きからインド文学を見る) 高橋孝信(Ⅱ)

海外文化研修《春》(現地へ赴いて文化と歴史の実験を体験しよう) 橋本泰元

韓国語A 佐藤 厚(Ⅰ)

韓国語B 佐藤 厚(Ⅱ)

韓国仏教史《秋》 佐藤 厚(Ⅱ)

韓国文化事情A B (韓国語を学び、韓国文化を知ろう) 金 蘭美

漢文訓読法《春》(漢文法の基礎知識) 坂井多穂子(Ⅰ)

基礎中国語A B①(初めて中国語を学ぶ人のための授業。簡単な日常会話と基礎的な文法表現について) 坂井多穂子(Ⅰ)

基礎中国語A②(中国語初級会話入門) 吉田雅子(Ⅰ)

基礎中国語B②(中国語初級会話) 吉田雅子(Ⅰ)

基礎中国語A B③(発音を中心に学ぶ初級中国語Ⅰ) 波多野真矢(Ⅰ)

基礎中国語A B③(発音を中心に学ぶ初級中国語Ⅱ) 波多野真矢(Ⅰ)

キリスト教概論《春》(キリスト教の誕生とその背景を思想的・歴史的にたどりながら、キリスト教の特徴を学ぶ) 山中利美(Ⅰ)

近世日本思想A(日本近世の宗教と思想(十六・十七世紀を中心に)) 伊藤 聡

近世日本思想B(日本近世の宗教と思想(十八・十九世紀を中心に)) 伊藤 聡

近代化と東洋《秋》(東洋は近代化をどのように受け止めたか) (オムニバス形式) 伊吹 敦(Ⅱ)

現代に生きる仏教《春》(現代の社会問題に関わる「Engaged Buddhism」)について、日本・アジア・米国などの事例から学ぶ) 戸松義晴(Ⅱ)

現代のインド《秋》(インド近・現代の政治思想家) 宮本久義(Ⅱ)

サンスクリット語I A B (古典サンスクリット入門) 沼田一郎(Ⅰ)

サンスクリット語I A B (古典サンスクリット初級文法) 渡邊郁子(Ⅱ)

坐禅《春》(こころの坐りによって、自己と向き合う) 篠塚純海(Ⅱ)

写経《春》 張堂興昭(Ⅰ)

宗教学概論A(多様な教理と実践の世界) 島田茂樹

宗教学概論B(華麗なる文化と芸術の世界) 島田茂樹

宗社会学A(「宗教」の社会性と個人性) 富澤かな

宗社会学B(インドの社会と宗教とその理解) 富澤かな

宗教をめぐる諸問題A B(仏教など諸宗教における聖者とは) 岩井昌悟

(オムニバス形式) 蓮見行廣

書道史A(中国書道史(書体の変遷史))

書道史B (中国書道史(書風の変遷)と日本書道史) 蓮見行廣
神道史A (神仏習合思想の形成と展開(古代)) 伊藤 聡 (I)
神道史B (神仏習合思想の形成と展開(中世)) 伊藤 聡 (I)
総合IAIB① (東洋と西洋の共生論) (オムニバス形式)

総合III B (東洋大学井上円了哲学塾-哲学実践講座) (オムニバス形式)
河地 修
山口しのぶ

総合ⅣA① (日本の近代化と東洋大学-井上円了の哲学と実践
—(オムニバス形式)—)
山口しのぶ
渡辺章悟

チベット語A (古典チベット語文法)
山口しのぶ
チベット語B (『法華経普門品(観音経)』を読む)
山口しのぶ
チベット仏教史《春》
山口しのぶ

中国学概論AB (中国学の〈可能性〉)
小路口聡
中国学研究法AB (中国学の基礎知識を学ぶ)
坂井多穂子
中国現代文学史A《春》(—中国二〇世紀文学の歩み—)

中国語IVVIAB
馬 雪峰 (I)
中国語VIIAB (中国語で作文)
田中路子
馬 雪峰

中国語IVAB
杉江淑子 (I)
中国語VIAB
杉江淑子 (II)
中国語学演習AB (名言と笑い話で覚える中国語)
馬 雪峰 (I)

中国哲学講読AB① (道家の思想) 山田利明

中国哲学講読AB② (『天道溯源』講読) 中村 聡 (I)

中国哲学史AB 山田利明 (I)

中国哲学特講IA (宋明儒学思想入門-朱子学入門-) 小路口聡 (I)

中国哲学特講IB (宋明儒学思想学入門-陽明学入門-) 小路口聡 (I)

中国哲学特講IIAII B① (仙人伝の研究) 山田利明

中国の美術A (先史-南北朝時代の中国美術) 萩原 哉 (I)

中国の美術B (隋唐-明清時代の中国美術) 萩原 哉 (I)

中国の美術AB (中国の仏教・道教を中心とした宗教美術史) 田中知佐子 (II)

中国仏教史A (初伝期から南北朝まで) 伊吹 敦

中国仏教史B (隋代から現代まで) 伊吹 敦

中国文化史AB (入門と手ほどき) 播本崇史

中国史概説AB 竹内洋介 (I)

中国史概説A B 竹内洋介 (II)

中国文学講読A B 川崎ミチコ (I)

中国文学講読A B② (杜甫を読む) 坂井多穂子 (I)

中国文学史A (先秦から秦漢まで) 野間信幸 (I)

中国文学史B (魏晋南北朝から唐代まで) 野間信幸 (I)

中国文学特講IAIB (台湾の文化・文学と歴史を学ぶ) 野間信幸 (I)

中国文学特講IAIB (台湾の文化・文学と歴史を学ぶ) 野間信幸 (I)

- 中国文学特講ⅡAⅡB①（敦煌文献—概説）川崎ミチコ（Ⅰ）
中国文学特講ⅡAⅡB（宋代の文学作品を読む—詩を中心に—）
坂井多穂子（Ⅰ）
中国文献学A B
川崎ミチコ（Ⅰ）
中国文字学A B
坂本頼之
哲学概説A B（自分の頭で考えて、自分の言葉で伝えるということ）
渡邊郁子（Ⅱ）
東西交渉文化史A（前近代中央ユーラシアの歴史と文化）
青木雅浩
東西交渉文化史B（二〇世紀の中央ユーラシア）
青木雅浩
東洋芸術文化特講ⅠB（アジア映画から見たアジア世界）
深尾淳一（Ⅱ）
東洋芸術文化特講ⅡA（南アジアの音楽文化と宗教思想）
田森雅一（Ⅰ）
東洋芸術文化特講ⅡB（バリ島の芸能から人間の創造性を学ぶ）
山本早良紗（Ⅰ）
東洋芸術文化特講ⅢA（東アジア絵画史）
北野良枝（Ⅰ）
東洋芸術文化特講ⅢB（中国伝統演劇の世界）
有澤晶子（Ⅰ）
東南アジア仏教史《春》（スリランカ及び東南アジア諸国における上座仏教の国家的受容とその変遷過程の理解、また主要經典と基本的仏教用語の把握）
藪内聡子
東洋思想文化演習Ⅰ①（インド思想・文化の研究—インド古代社会・文化史の諸問題—）
沼田一郎（Ⅰ）
東洋思想文化演習Ⅰ③（ヒンドゥー教思想・文化の研究Ⅰ）
橋本泰元（Ⅰ）
東洋思想文化演習Ⅰ④（インド大乘仏教の研究）
渡辺章悟（Ⅰ）
東洋思想文化演習Ⅰ⑤（初期仏教研究）
岩井昌悟（Ⅰ）
東洋思想文化演習Ⅰ⑦（禅文献を読む）
伊吹 敦（Ⅰ）
東洋思想文化演習Ⅰ⑧（仏教、ヒンドゥー教の芸術・文化研究）
山口しのぶ（Ⅰ）
東洋思想文化演習Ⅰ⑩（朱熹『論語集注』を読む—朱子学入門—）
小路口聡（Ⅰ）
東洋思想文化演習Ⅰ⑪（中国の歴史と思想）
山田利明（Ⅰ）
東洋思想文化演習Ⅰ⑫（漢詩の分析と鑑賞）
野間信幸（Ⅰ）
東洋思想文化演習Ⅰ①（インド思想・文化の研究—インド古代社会・文化史の諸問題—）
沼田一郎（Ⅱ）
東洋思想文化演習Ⅰ②（仏教思想の研究）
竹村牧男（Ⅱ）
東洋思想文化演習Ⅰ③（東洋芸術文化研究）
山口しのぶ（Ⅱ）
東洋思想文化演習Ⅰ④（漢詩の分析と鑑賞）
野間信幸（Ⅱ）
東洋思想文化への誘いA B
小路口聡（Ⅰ代表）
東洋思想文化への誘いA B
沼田一郎（Ⅱ代表）
東洋の身体論《春》（ここからだをどう見るか）（オムニバ形式）
伊吹 敦（Ⅱ）
日本漢学A B（日本では漢学を如何に学んで来たのか）
坂本頼之
日本の美術A B（日本美術の現在、過去、未来）
藤澤 紫

日本仏教史 A B (日本の仏教を行学二道の視点より理解する)

襄輪顕量 (I)

日本仏教史 A (日本における仏教のあゆみと社会・文化)

— 仏教伝来から鎌倉仏教 (前半) まで — 橋川智昭 (II)

日本仏教史 B (日本における仏教のあゆみと社会・文化)

— 鎌倉仏教 (後半) から明治時代以後の仏教まで —

橋川智昭 (II)

パリー語 A B (聖典に直に触れる)

比較宗教 A

比較宗教 B

ヒンディー語 A (ヒンディー語入門 I)

ヒンディー語 B (ヒンディー語入門 II)

ヒンドゥー教概論 A B (ヒンドゥー教の思想を学ぶ)

仏教漢文 A (経典と注釈書を読む)

仏教漢文 B (浄土教文献・禅文献、史伝を読む)

仏教思想概論 A (— 仏教とは何か —)

仏教思想概論 B (仏教の思想とその展開)

仏教思想特講 I A (空の世界に何があるのか)

仏教思想特講 II A (禅思想の形成と社会との交渉)

仏教思想特講 I B (華嚴の思想)

仏教思想特講 II B (密教の思想)

仏教思想特講 III A (すべては解脱のために)

仏教思想特講 III B (念仏の思想の特性を理解する)

仏教思想特講 IV A (唯識思想論)

仏教思想特講 IV B (天台の思想)

仏教と社会福祉《秋》(現代社会における仏教福祉の意義と課題)

— オムニバス形式 — 戸松義晴

仏教の芸能《秋》(仏教伝統歌謡の基本を学び実修してみよう)

— オムニバス形式 — 橋本泰元

ヨーガ《春》(実践をととして思想を学ぶ)

レポート・論文制作の技法《春》(論理的なものの考え方を身につけよう)

— オムニバス形式 — 伊吹 敦 (I)

レポート・論文制作の技法②《春》(大学における研究とは)

— オムニバス形式 — 川崎ミチコ (II)

レポート・論文制作の技法③《春》

— オムニバス形式 — 山田利明

レポート・論文制作の技法④《春》

— オムニバス形式 — 小路口聡

インド哲学科開講科目

サンスクリット文献を読む II A・II B (実践サンスクリット中

級)

宗教科教育論《春》(仏教と教育について)

宗教科指導法 I・II (宗教科) の教育と指導)

中国哲学文学科開講科目

中国哲学演習 II (程頤『周易程氏伝』・朱熹『周易本義』を読む)

橋川智昭

林 鳴宇

戸松義晴

橋本泰元

番場裕之

伊吹 敦 (I)

川崎ミチコ (II)

山田利明

小路口聡

成瀬良徳

成瀬良徳

成瀬良徳

成瀬良徳

成瀬良徳

成瀬良徳

成瀬良徳

成瀬良徳

成瀬良徳

成瀬良徳

成瀬良徳

成瀬良徳

成瀬良徳

成瀬良徳

中国哲学研究法(『性理字義』を読む)

辻井義輝
小路口聡

日本仏教研究Ⅱ
博士後期課程

林田康順

中国哲学特講Ⅱ②(宋代思想概説)

辻井義輝

インド哲学特殊研究Ⅰ・インド哲学研究指導Ⅰ

宮本久義

中国文学演習Ⅱ(『史記』「高祖本紀」を読む)

坂井多穂子

インド哲学特殊研究Ⅱ・インド哲学研究指導Ⅱ

橋本泰元

中国文学演習Ⅲ①(『敦煌文献』を読む)

川崎ミチコ

仏教学特殊研究Ⅰ・仏教学研究指導Ⅰ

渡辺章悟

中国文学研究法(中国文学の基礎知識)

野間信幸

仏教学特殊研究Ⅱ・仏教学研究指導Ⅱ

山口しのぶ

中国文献読解法(「中国」についての「基礎知識」を身につけよう)

川崎ミチコ

仏教学特殊研究Ⅲ・仏教学研究指導Ⅲ

伊吹 敦

仏教学特殊研究Ⅳ・仏教学研究指導Ⅳ

竹村牧男

〈大学院〉

インド哲学仏教学専攻

博士前期課程

インド哲学研究Ⅱ・インド哲学研究指導Ⅲ

橋本泰元

博士前期課程

インド哲学研究Ⅲ

高橋孝信

中国哲学演習Ⅰ・中国哲学研究指導Ⅳ

山田利明

サンスクリット文献研究Ⅰ・インド哲学研究指導Ⅰ

宮本久義

中国哲学演習Ⅱ・中国哲学研究指導Ⅲ

小路口聡

サンスクリット文献研究Ⅱ

後藤敏文

中国哲学特論Ⅲ

小路口聡

初期仏教研究Ⅰ

池田練太郎

中国文学演習Ⅰ・中国哲学研究指導Ⅰ

有澤晶子

初期仏教研究Ⅱ

松村淳子

中国文学特論Ⅰ・中国哲学研究指導Ⅱ

野間信幸

大乘仏教研究Ⅰ・仏教学研究指導Ⅰ

渡辺章悟

中国文学特論Ⅱ・中国哲学研究指導Ⅰ

坂井多穂子

大乘仏教研究Ⅱ・仏教学研究指導Ⅱ

山口しのぶ

博士後期課程

野間信幸

中国仏教研究Ⅰ・仏教学研究指導Ⅳ

伊吹 敦

中国哲学特殊研究Ⅰ・中国哲学研究指導Ⅰ

野間信幸

中国仏教研究Ⅱ・仏教学研究指導Ⅲ

竹村牧男

中国哲学特殊研究Ⅱ

有澤晶子

日本仏教研究Ⅳ・仏教学研究指導Ⅲ

竹村牧男

中国哲学特殊研究Ⅰ

有澤晶子

中国哲学特殊研究Ⅲ·中国哲学研究指Ⅲ
中国哲学特殊研究Ⅳ
中国哲学特殊研究Ⅴ·中国哲学研究指Ⅴ

小路口聡
坂井多穂子
山田利明

二〇一四年度卒業論文

インド哲学卒業論文

（一部）

- 河 大河 親鸞の思想の要諦とその生涯
 宮浦 和久 インド映画文化史
 齋藤 健奨 マザー・テレサの福祉精神
 石倉 徹 アーユルヴェエダの研究―精神医学を中心に―
 銀持 聖 BRアンベードカルの不可触民解放運動について
 ―思想とその影響を中心に―
 玉本 千幸 植民地時代の北インドにおける女性像
 那須野 永莉 仏典におけるサーンキヤ思想の研究―真諦と『金七十論』―
 藤原 良真 チャンドラキールテイの二諦説
 常塚 勇哲 マーラの娘について
 松本 和久 瞑想と認知応用行動療法の研究―うつ病を治療する仏教瞑想―
 福島 幸夫 律蔵からみた沙弥について
 塚越 悠貴 アングリマール説話の研究
 山下 実穂 インド・ミニアチュール絵画に関する一考察
 本間 華穂 近現代のインドの教育制度と諸問題
 藤岡 佑太 インドの祭りにおける祭礼の研究と水かけ祭りの

比較

- 川口 あい インドの人々と動物のかかわり
 水野 安未吏 インド更紗が衣服の革命を起こす
 ―互いの文化を尊重するファッション―
 宇野 翔太 インド近代産業におけるカーストの実態について
 岡田 涉吾 初期仏教における「住」
 野崎 瞬 インドの女性問題
 應本 小町 インドにおける女性の在り方
 柿内 裕美子 パンチャタントラ―文学からわかるインド―
 高橋 一平 インドの不可触民について
 堀 亜湖 インド言語哲学―文法学者バルトリハリ―
 菊地 良介 『ラーマヤナ』における主要な聖地にまつわる神話
 高木 和貴 天台宗の修行―得度・加行を中心として―
 早川 博之 南インド在地社会の変化―植民地支配と制度を通して―
 奥野 あおい 作品と時代から見るタゴールの思想
 中村 桃果 スイク教の特異性に関する考察
 吉野 峰央 欧米におけるラヴィ・シャンカルの音楽と生涯を通じた試み
 給前 剛 カースト制がインドにもたらしたもの
 林田 萌 バリ島における儀礼について―通過儀礼と葬式儀礼に見る死生観―

山本 宙 祭り、神輿渡御から見た町会の姿

丸山 穂乃香 プレームチャンドの短編小説から見る英領インド

星野 晴香 インドにおける女神崇拜

伊藤 陽介 古代インドの聖仙

西澤 光 インドにおける女性に対する暴力から見る女性の地位とインド社会の封建制について―その現状と対策を巡って―

武熊 慎太郎 アーユルヴェエダの治療と実践に関する一考察

伊藤 圭亮 『聖☆おにいさん』の人気の秘密を探る

永島 萌 仏教の中の女性差別

水嶋 優太 敦煌石窟寺院（莫高窟）における歴史変遷

佐藤 悠造 サルマン・ラシュディによる「歴史」の共有

湯浅 輝音 インドと日本の死生観の違い

棹山 真衣 ヒンドゥー教の女性の地位について

黒河内 義晴 アジア発祥マイナースポーツの研究

―日本国内においてカバディ・セパタクロー・武術太極拳はなぜ知名度が低いのか―

山中 崇史 西田幾多郎と禪

大谷 香留奈 ガネーシヤと歓喜天―造形と信仰の諸形態―

大澤 賢介 東インド会社の支配と崩壊

中殿 靖見 初期ヴァイシエーシカ文献及びアリストテレスの

佐藤 仁美 『チャラカ・サンヒター』における業と時間の関

カテゴリー論とその比較

中国哲学文学科卒業論文

加藤輝 台湾文学と張文環について

矢部数馬 李白の詩の中の月について

係性

山本 千歩里 ナーラーヤナ・グルの思想研究

―ひとつのカースト、ひとつの宗教、ひとつの神

―

藁谷 真美 ダルマ・シャーストラにおける輪廻思想の研究

―『マヌ法典』に見られる行為論の革新性―

菅野 智也 ユング心理学に学ぶ東洋人のあり方について

松井 梓 陰陽道と安倍晴明

青木 彩季 サーンキヤ思想―知による解脱―

〈Ⅱ部〉

畑中 匠 急成長するインド経済の背景

岩田 恵理 写経と漢訳大藏経

滝 和久 北インド音楽の変容についての考察

金子 友紀 『ヘーヴァジュラ・タントラ』研究―第一章「一切如来の身語心たるヘーヴァジュラ族の章」を中心として―

飛鷹 郁未 「阿頼耶識」の中には何が蓄えられているのか

中川 裕太 真言密教における観法について―興教大師覚鑿における阿字観―

中国哲学文学科卒業論文

加藤輝 台湾文学と張文環について

矢部数馬 李白の詩の中の月について

藤崎絢子
水早龍介
栗原大志
秋里優衣
高柳志織
吉田牧希
海老澤樹雲
峰尾羊
井上雄介
中島沙季
宮田紗也加
新井翔太
三浦すみれ
山口竜児
福永彩生
浅野綾水
佐藤智博
福島佳澄
米山夏鈴

司馬遷の人格形成
切韻系韻書の韻目の排列について
詩聖杜甫と詩仙李白における両者の関係
中国の色について
孟子が貫いた道徳主義と現代社会
四柱推命における私の運命——占いがもたらす影響——
新しい戦争と孟子の義戦——「正義」とは？——
現代に生きる陽明学
明代・清代の中国社会に儒学思想が与えた影響について
『太平廣記』における鬼の性質
日本台湾統治期における台湾の公学校
台湾における日本統治時代前期の教育
——井沢修二が行った日本語教育について——
唐宋の茶
遣唐使に纏わる苦悩
孟子の思想・教育と、現代の日本の教育
孟子の民本思想の行方
呂赫若の描く「近代」と「伝統」
——『台湾文学』期作品を中心として——
『藍色夏恋』から見る台湾の若者
性善説と日本の教育について

阿久澤巧
岩井明日香
豊川優未
青木柚紀子
伊藤真実
岡上奈菜
駒形千鶴
磯部亮太
荒珠実
小澤夕莉
橋本和佳
菊池厚基
藤山菜津美
横塚優季
森田明香
松澤七侑
大場照義
堀越一哉
阿久澤巧
岩井明日香
那宅太子の受容と変遷
孟子の理想と現実世界
李賀「馬詩二十三首」における比喩表現について
親日のきっかけ——八田與一の活躍——
『史記』に見る司馬遷の批評精神
京劇「花木蘭」——花木蘭の女性性の表現
死生観——莊子と武士道から見る——
呉濁流の作品から読み取る日本統治下の台湾
『魯冰花』小説と映画の比較
白居易の半生——友である元稹との交流を中心に——
高密県東北郷 莫言 魂の王国
『論語』の現代における意味と役割
『三国志演義』における関羽と義
王弼注「老子」の存在論
格差是正の糸口をつかむ——「均」「和」「安」の理念を中心として——
『論語』にみる理想の教師像
陶淵明の詩における酒
大学院インド哲学仏教学専攻修士論文
小林史子 鈴木大拙とアメリカ
尾上海 ヒンドゥー・ナシヨナリズムの研究——アヨーディ

ヤー問題を中心に

伊藤 頼人 愛は世界を混乱させるのか―『マハーバーラタ』

における愛とクシャトラダルマの相克―

グステイ・アユ・クトウト・プスパワティ

バリ・ヒンドゥー教における儀礼研究―パンチャ・

ヤドニャおよび葬送儀礼を中心に―

大学院中国哲学専攻修士論文

趙 徳偉 中国哲学における四句教の意義―王陽明思想再考

水野あゆ 中国児童文学の誕生―葉聖陶を中心に

盛田綾希 白澤考

東洋思想文化 第2号

(東洋大学文学部紀要 東洋思想文化学科篇 第68集)

平成二十七年二月二十八日 印刷

平成二十七年二月二十八日 発行 [非売品]

発行所 東洋大学文学部

東京都文京区白山五―二八―二〇

電話 東洋思想文化学科〇三三五七三在

印刷 共立印刷株式会社

東京都杉並区和田一―一四―一三

電話 〇三―三三八二―二二一

EASTERN PHILOSOPHY AND CULTURE

Bulletin of the Faculty of Letters

Toyo University

No. 68

March, 2015

Series of

EASTERN PHILOSOPHY AND CULTURE

II

CONTENTS

- WATANABE Shogo : Acceptance and Deployment of
the *Heart Sutra* in the Six Collections of Authentic History (21)
- IBUKI Atsushi : Daoxuan (Dōsen, 道璿)'s Commentary on
the *Brahma Net Sutra* : the Documentary Value of Japanese
Buddhist Materials for the Study of Early Ch'an Buddhism (37)
- YAMAGUCHI Shinobu : A Study on the Rite of Passage
“*Telubulanin*” in Bali Hinduism (115)
- HASHIMOTO Taigen : Nānak's Conception of
the Divine in the Gurū Granth Sāhib (139)
- KAWASAKI Michiko :
A Short Essay on Jingxi Zizhi (敬惜字紙) (158)

Published by

TOYO UNIVERSITY

Hakusan, Bunkyo-ku, Tokyo